取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

CROWN
MAJESTA

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 後席 9 型ワイドディスプレイ
- エアコン
- バックガイドモニター
- インテリジェントパーキングアシスト
- サイドモニター
- クリアランスソナー
- ETC システム
- ITS スポットサービス（DSRC）

1 運転する前に

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. さまざまな状況での運転

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方

5-2. 緊急時の対処法

6 車両の仕様

6-1. 仕様一覧

6-2 カスタマイズ機能

さくいん

外観

ボンネット P. 314
ドアミラー P. 84
ワイパー P. 183
ヘッドライト（ハイビーム） P. 177
ヘッドライト（ロービーム） P. 177
BTO00BY001
方向指示灯 P. 158
車幅灯 P. 177
フロントフォグライト P. 181
方向指示灯 P. 158

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

フロント席

ヘッドレスト P. 68
シートベルト P. 73
SRS サイドエアバッグ P. 109
運転席 SRS エアバッグ P. 109
A
B
C
BTO00AL003
コンソール
ボックス P. 268
アクセサリーソケット P. 282
フロントシート P. 58
SRS ニーエアバッグ P. 109
グローブボックス P. 267
助手席 SRS エアバッグ P. 109

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

B
マイコンプリセット
ドライビングポジション
システムスイッチ P. 65
ロックレバー P. 45
トランクオープナー
P. 50
BTO00AL005
パワーウインドウスイッチ P. 87
ドアロックスイッチ P. 45
ウインドウロックスイッチ P. 87

C

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

給油口オープナー P. 95

メーター P. 161

マルチインフォメーションディスプレイ P. 171

トランクオープナー
メインスイッチ P. 51

ホーン P. 160

ボンネットオープナー P. 314

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

B

LKA スイッチ* P. 199
オーディオ操作スイッチ※
トークスイッチ※
DISP スイッチ P. 172
電話スイッチ※
MODE
LKA
DISP
SRS
AIRBAG
+RES
−SET
BTO00AL009
サイドカメラスイッチ※
IPA プレサポートスイッチ※
車間距離切りかえスイッチ* P. 192
レーダークルーズコントロールスイッチ* P. 189
クルーズコントロールスイッチ* P. 186

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

D
オドメーター／トリップメーター
スイッチ P. 163
ワイパー＆ウォッシャー
スイッチ P. 183
ODO
/TRIP
RESET
BTO00AL011
パーキングブレーキ
解除レバー P. 159
クリアランスソナー
メインスイッチ※
ハンドル位置調整スイッチ P. 78

リヤ席（5 席車両）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

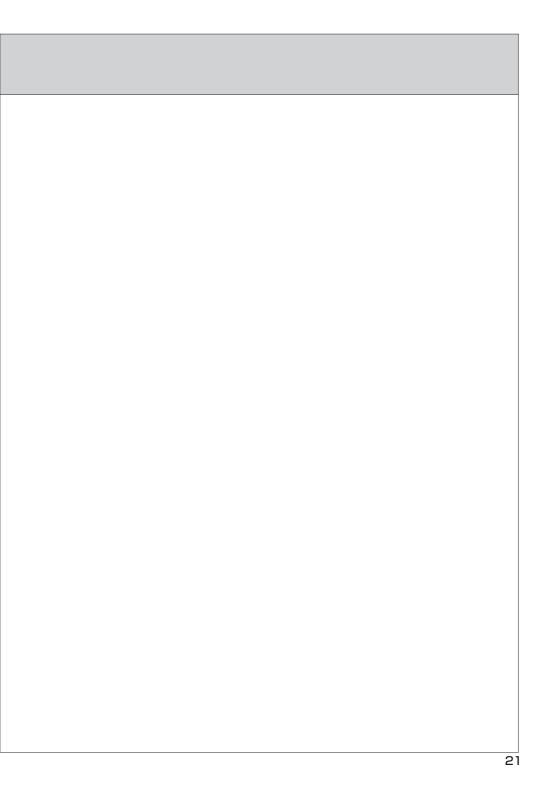
リヤ席（5 席車両）

A
リヤシートスイッチ P. 61
リヤシートヒーター
スイッチ* P. 286
リヤシートスイッチ P. 61
OFF
AUTO LO HI A/C
AUTO MODE TEMP
OFF
REAR A/C AIRPURIFIER
SHADE
PWR
MODE
VOL
TUNE TRACK
CH
AUDIO
BTO00AL013
リヤエアコンスイッチ※
電動リヤサンシェード
スイッチ* P. 292
オーディオスイッチ※

リヤ席（4 席車両）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

リヤ席（4 席車両）

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。

● 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるあそれがあり危険です。

● フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 128）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務付けられています)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠注意

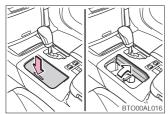
ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に 1

キー

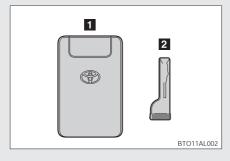
お客様へ次のキーをお渡しします。

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 31）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 43）

2 メカニカルキー

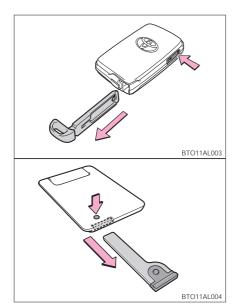
3 キーナンバープレート

■ カードキー

1 電子キー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 31）

2 メカニカルキー

メカニカルキーを使うには

BTO11AL003
BTO11AL004

メカニカルキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください

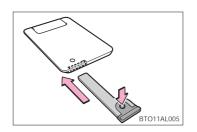
使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 400）

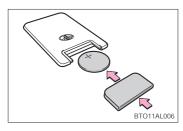
知識

■カードキーについて

●カード内蔵のメカニカルキーはカードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

BTO11AL005

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。

BTO11AL006

●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をトヨタエンブレム面側にして取り付けてください。

●カードキーは非防水です。

■駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてトランクオープナーのメインスイッチを OFF にして、グローブボックスを施錠します。（→P. 51, 267）
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、電子キーを紛失した場合、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子キーをつくることができます。（→P. 399）

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

電子キーは精密機器です。次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内だと電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

注意

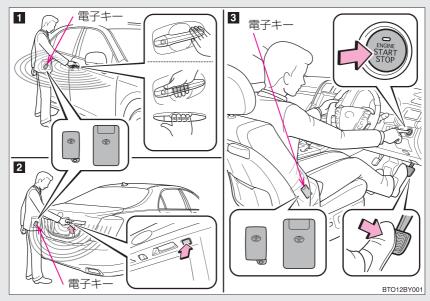
■キーを紛失したときは

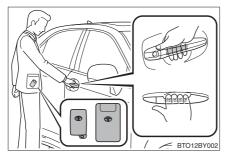
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キー（カードキーを含む）をすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

■カードキー取り扱いの注意

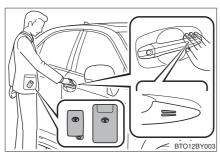
- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が錆びて作動しなくなるおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が錆びた場合は、トヨタ販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
  無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
  - ・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
  - ・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
  - ・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

スマートエントリー&スタートシステム

電子キー（カードキーを含む）をポケットなどに携帯するだけで次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）

1 ドアの解錠・施錠 （→P. 32）
2 トランクの解錠 （→P. 32）
3 エンジンの始動 （→P. 147）

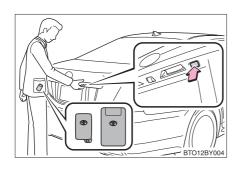
ドアの解錠・施錠

ドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

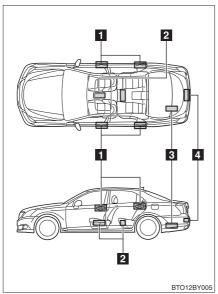
施錠操作を続けて行った場合、作動するのは 2 回までです。

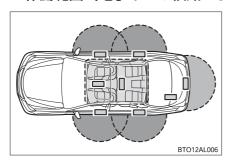
作動回数は無制限に変更することができます。詳しくは販売店にご相談ください。

トランクを開ける

スイッチを押す

パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ
2 車内アンテナ
3 トランク内アンテナ
4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの解錠・施錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

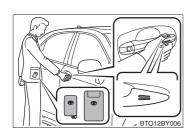
:エンジン始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅（解錠は 2 回、施錠は 1 回）で知らせます。
（トランク解錠時を除く）

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。切りかえの操作は車両から1m 以内で行ってください。(カードキーでは解錠ドアの切りかえはできません)

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする

手順 2 オートアラームの侵入センサーを停止する（操作中のオートアラームの誤操作防止）（→P. 102）

手順 3 キー表面のインジケーターが点滅していないのを確認後、 ボタンと同時に または のいずれかを約５秒押し続ける

操作を行うごとに次の表のように設定が切りかわります（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと、５秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示		解錠できるドア	ブザー音
オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
		運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
		運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	
		いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

手順 4 ワイヤレスリモコンでドアを解錠し、いずれかのドアを開ける

ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P. 100）

■**節電機能**

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内にスマートキーを 10 分以上放置した。
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった。

●14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■**電池の消耗について**

●電池の標準的な寿命は1～2年です。（カードキーは1年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 383）

●電子キーは常に電波を発信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・テレビ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話やその充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

必ず電子キーを携帯した上でスマートエントリー＆スタートシステムを作動させてください。

■電子キーの検知に関する留意事項

●車外から操作する場合は電子キーを車に近付けすぎないようにしてください。

●作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かない場合があります)

●電子キーが作動範囲内にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの解錠、施錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
・電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤシート後方のパッケージトレイ上、ドアポケット、グローブボックス内、またはリヤカップホルダー内などに置かれている場合

■スマートエントリー＆スタートシステム特有の留意事項

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●電子キーが作動範囲内にある場合に洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠・施錠することがあります。解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。

●電子キーが車室内または車に近い位置にある場合にワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できない場合は、ワイヤレスリモコンを使って解錠してください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、解錠／施錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。(キーの盗難に注意してください)

●車室内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、「車室内にキーがあります」という警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車室外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなり、ブザーが止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠できない場合があります。解錠されなかった場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、再度解錠操作をして、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてドアハンドルを握ってください。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420）

■解錠操作時のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P. 367）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■**車両バッテリー脱着時の留意事項**

●車両バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、または メカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●車両バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、異常ではありません。

●車両は常に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリー脱着前の“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■**スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは**

●ドアの解錠・施錠：→P. 400

●エンジン始動：→P. 401

■**電池が切れたときは**

→P. 346

■**販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能**

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420）
スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にした場合のドアの解錠・施錠、エンジンの始動方法などは「電子キーが正常に働かないときは」（→ P. 400）を参照してください。

警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P. 33）から 22cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器が近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることもできます。（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420）

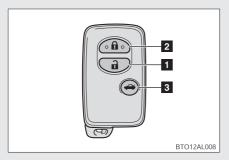
⚠ 注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 400）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器が電子キーの近くにあるとき
- 電子キーが次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような製品と同時に携帯しているとき
  - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
  - ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
  - ・デジタルオーディオプレーヤー
  - ・ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

ワイヤレスリモコン

ドアを解錠・施錠、トランクを解錠できます。

1 全ドア解錠

ワイヤレスリモコンでドアガラス・ムーンルーフを開けることができます。詳しくは販売店にご相談ください。

2 全ドア施錠

ワイヤレスリモコンでドアガラス・ムーンルーフを閉めることができます。詳しくは販売店にご相談ください。

3 トランク解錠（長押し）

パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。
（解錠は 2 回、施錠は 1 回）

トランク：ブザーで知らせます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 100）

■電池の消耗について

→P. 36

■解錠操作のセキュリティ機能

→P. 39

■電池が切れたときは

→P. 346

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 42

■販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420）

ドア

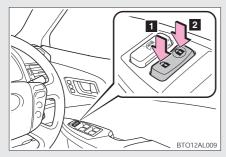
スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム

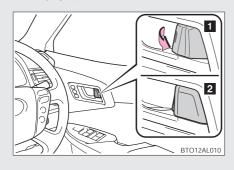
→P. 32

■ ワイヤレス機能

→P. 43

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

■ ロックレバー

1 解錠

2 施錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

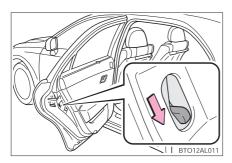
手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

BTO12AL011

施錠側にすると、リヤドアが内側から開かなくなります

お子さまが内側からリヤドアを開けないようにできます。両側のリヤドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーをＰから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーをＰに入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動 オートアンロック	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

設定の変更は、ナビゲーションシステムの画面で行います。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420）

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■イージークローザー（イージークローザー装着車）

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き、ドアが自動で完全に閉まります。

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）
- イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420）

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

警告

■イージークローザーについて（イージークローザー装着車）

- ドアが半ドア状態のときイージークローザーが働き自動的に閉まるため、指などを挟まないように十分注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 半ドア状態からイージークローザーが作動するまで数秒かかります。指などをドアの隙間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ロックレバーが施錠側になっているドアは、イージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。
- チャイルドプロテクターレバーが施錠側になっているドアは、車内のドアレバーではイージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。

注意

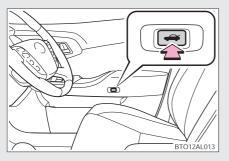
■イージークローザーの故障を防ぐために

ひんぱんにドアの開閉をくり返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能を使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには

BTO12AL013

トランクオープナースイッチを押して、トランクのロックを解除する

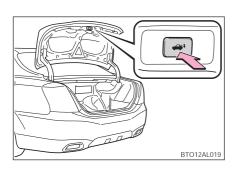
パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。

■ 車外からトランクを開けるには

▶ スマートエントリー＆スタートシステム
→P. 32

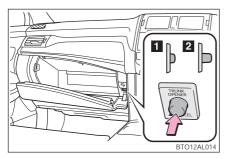
▶ ワイヤレスリモコン
→P. 43

トランククローザー（パワートランクリッド装着車）

BTO12AL019

スイッチを押すとブザーが鳴り、トランクが自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、トランクは再び開きます。

トランクオープナーを使用できなくするには

BTO12AL014

グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

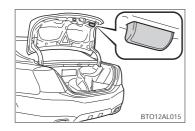
1 ON

2 OFF

ワイヤレスリモコン、スマートエントリー＆スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。

知識

■ トランクグリップ

BTO12AL015

トランクを引き下げるときにお使いください。

■ トランクライト

トランクを開けたとき、トランクライトが点灯します。

■イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働きトランクが自動で閉まります。

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、トランクをいったん半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ **トランク内キー閉じ込み防止機能について**

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合トランクオープンスイッチ（車外）で開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■ **過負荷防止機能（パワートランクリッド装着車）**

トランクリッドの上に無理な力がかかっていると作動しません。

■ **落下防止機能（パワートランクリッド装着車）**

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■ **挟み込み防止機能（パワートランクリッド装着車）**

トランクリッドが閉まる途中で異物を挟むと、作動が停止し、開きます。

■ **バッテリーあがりを防ぐために**

トランクが開いた状態でトランクライトが点灯したままの場合、約 30 分後に自動消灯します。

■ **トランクオープナーメインスイッチを OFF にしたあとに駐車場などでキーを預けるときは**

→P. 28

警告

■**走行中の警告**

● 走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

● 走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■**お子さまを乗せているときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

● トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

● お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

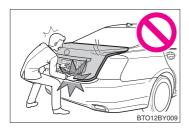
■トランクの使用にあたって

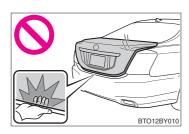
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

BTO12BY008

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

BTO12BY009

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

警告

■**イージークローザーについて**

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告

■パワートランクリッドについて

パワートランクリッドの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- トランクリッドが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにトランクリッドが落ちる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切りかわり、急にトランクリッドが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - 自動作動中、障害物に干渉したとき
  - エンジン停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能（パワートランクリッド装着車）**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■**イージークローザーの故障を防ぐために**

イージークローザーの作動中はトランクに無理な力をかけないでください。

■**パワートランクリッドの故障を防ぐために**

- パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や荷物がのっていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

フロントシート

1 前後位置調整

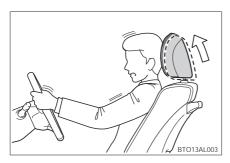
2 リクライニング調整

3 クッション前端の上下調整（運転席のみ）

4 シート全体の上下調整（運転席のみ）

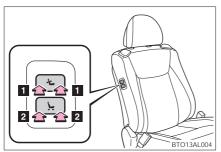
5 ヘッドレストの上下調整*（→P. 68）

6 腰部硬さ調整（運転席のみ）

アクティブヘッドレスト（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車および可倒式ヘッドレストを除く）

追突された際、乗員の腰が背もたれを押すことで内蔵された機構が作動し、ヘッドレストが少し斜め上方に動きます。
これにより乗員の頭をヘッドレストで受け止め、むち打ち傷害の軽減に寄与します。

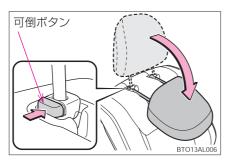
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

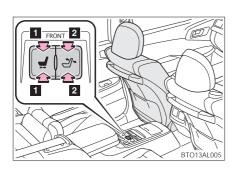
助手席側面スイッチ

運転席またはリヤ席から助手席を操作できます。

1 リクライニング調整

2 前後位置調整

可倒式ヘッドレスト（4 席車両の助手席）

助手席のヘッドレストをお好みの状態にすることができます。

ヘッドレストをいちばん上まで引き上げたあと、可倒ボタンを押して、さらに引き上げ、ヘッドレストを前に倒します。

リヤ席からの助手席操作について（4 席車両）

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

知識

■アクティブヘッドレストについて

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

警告

■シート調整について

- シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■可倒式ヘッドレストについて

ヘッドレストを倒したまま助手席に人を乗せないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。人を乗せるときは、必ず走行前にヘッドレストを引き起こして正しい位置に調整してください。

注意

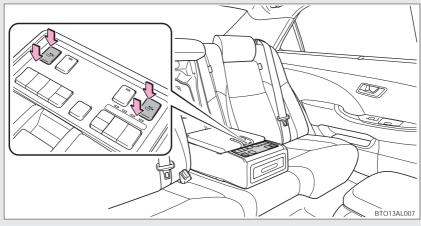
■運転席またはリヤ席からの助手席操作について

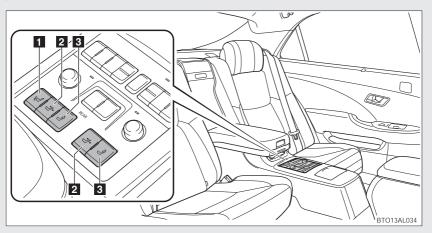
操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

■シート肩口スピーカー装着車について

スピーカーグリル部にジュースなどをこぼしたり、シートクリーナーや消臭剤などを吹き付けたりしないでください。オーディオの音質の劣化の原因になるおそれがあります。

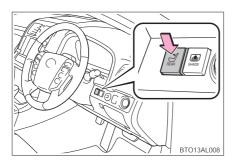
リヤシート

▶ 5 席車両

リクライニング調整

▶ 4 席車両

1 オットマン角度調整（助手席側のみ）

2 リクライニング調整

3 ヘッドレスト上下調整（→P. 68）

フロント席からリヤシートをもどす

ボタンを押しているあいだ、リヤシートが中立位置へもどります。

知識

■オットマンのドア連動リターン機能

助手席側のリヤドアを開けると自動的にオットマンが下端位置にもどり、乗りおりしやすくなります。

■オットマンの助手席連動リターン機能

助手席を、前後位置調整またはリクライニング調整により後方へ作動させると、助手席が作動しているあいだのみ、オットマンが下端位置方向に作動します。

■オットマンの挟み込み防止機能

ドア連動リターンまたは助手席連動リターン作動中、オットマン部分に異物が挟まると作動が停止します。助手席連動リターン作動中はブザーも鳴ります。

■オットマンの角度調整スイッチを押し続けると

次のとき、シートモーターの温度が上がると、モーターの故障防止機能が働き、オットマンが動かなくなる場合があります。

- 角度調整スイッチを押し続けて、約 120 秒経過したとき
- モーターがロックしてから、約 30 秒、角度調整スイッチを押し続けたとき

モーターが冷めれば、動くようになります。

■プリクラッシュシートバック装着車のリクライニング調整について

バッテリー脱着直後はリクライニング調整中に作動が停止する場合がありますが、数分後、リクライニング調整できれば異常ではありません。
また、リクライニング調整の回数が多くなると作動が停止する場合がありますが、しばらくしてからリクライニング調整できれば異常ではありません。

警告

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■フロント席からリヤシートをもどすときは

リヤシートの乗員が車をおりてから操作してください。

■オットマン使用中は

オットマン部分の下に手や足を入れないでください。
連動リターン機能などでオットマンが格納されるときに、挟まれてけがをするおそれがあります。また、シートモーターが高温になる場合があり、やけどをするおそれがあります。

■オットマンの操作をするときは

足元のスペースを確保し、足を助手席に挟まないように注意してください。

■オットマンの使用について

- オットマン部分には座らないでください。
  シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗りおりする際はオットマンを格納してください。

注意

■**オットマンの故障を防ぐために**

●足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。

●オットマン部分に重いものを乗せないでください。

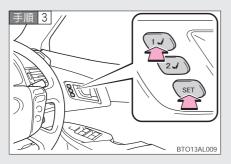
マイコンプリセットドライビングポジションシステム

お好みのドライビングポジション（運転席、ハンドルの位置、ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。
ドライビングポジションは 2 パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 2 運転席、ハンドルの位置、ドアミラーの角度を好みの状態に調整する

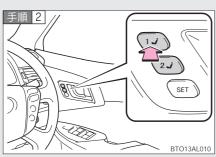
手順 3

SET ボタンを押しながら、またはSETボタンを押したあと３秒以内に、1 または 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーが P の位置にあることを確認します。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 2

1 または 2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

■ メモリーコール機能

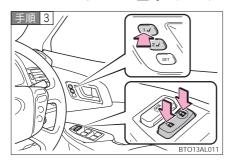
ポジションを電子キー（カードキーを含む）に登録しておくと、スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けたとき、ドライビングポジションが呼び出されます。

メモリーコール機能を使用するには

電子キー(カードキーを含む)に 1 または 2 のポジションを登録します。

手順 1 登録させたい電子キー（カードキーを含む）のみ携帯し、シフトレバーを P にして運転席ドアを閉める

車内に電子キーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

手順 2 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにし、登録したいポジションを呼び出す

呼び出したポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの解錠側または施錠側をブザーが鳴るまで押す

知識

■ メモリーコール機能を解除するには

解除させたい電子キー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内に電子キーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの解錠側または施錠側をブザーが鳴るまで押す

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 時の作動

運転席ドアを開け、180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、運転席が調整されます。ハンドルの位置は “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すと調整されます。

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めるには

次のいずれかの操作をします。

- ●SET ボタンを押す
- ●1 または 2 のボタンを押す
- ●シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）

■パワーイージーアクセスシステムについて（→P. 78）

降車時、登録した運転席の位置に対して、車両カスタマイズ機能（→P. 420）で設定した移動量だけ、シートが後方に移動します。

⚠ 警告

■シート調整時の警告

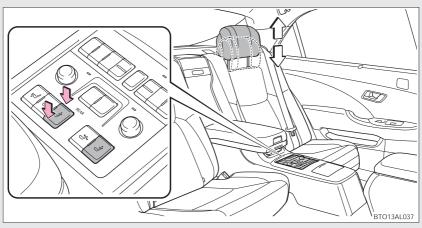
シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルで圧迫されたりしないよう注意してください。

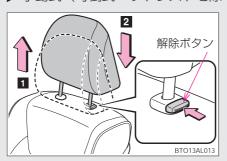
ヘッドレスト

■ 上下調整

▶ 電動式（フロント席）

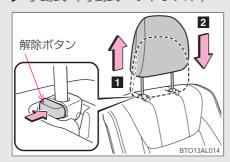
スイッチを上下に操作する

▶ 電動式（4 席車両のリヤ席）

スイッチを押す

▶ 手動式（可倒式ヘッドレストを除く）

1 上げる

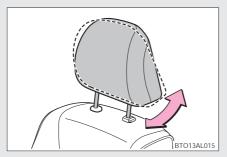
2 下げる

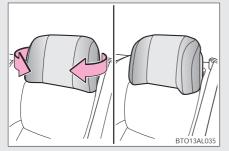
解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

▶ 手動式（可倒式ヘッドレスト）

1 上げる

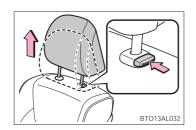
2 下げる

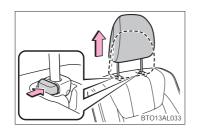
解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

■ 前後調整（可倒式ヘッドレストを除くフロント席ヘッドレスト）

ヘッドレストをつかみ、前後に調整する

■ サイド部の調整（4 席車両のリヤ席）

サイド部をつかみ、前後に調整する

知識

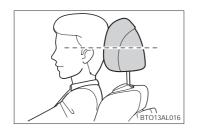
■手動式ヘッドレストの取りはずし（可倒式ヘッドレストを除く）

解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを引き上げます。

■可倒式ヘッドレストの取りはずし

両側の解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを引き上げます。

■電動式ヘッドレストの取りはずしについて

ヘッドレストの取りはずし、取り付けについてはトヨタ販売店にご相談ください。

■ヘッドレストの高さについて

BTO13AL016

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ席の手動式ヘッドレストの使用について

BTO13AL036

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

注意

■ヘッドレストスピーカー装着車について

スピーカー部にジュースなどをこぼしたり、シートクリーナーや消臭剤などを吹き付けたりしないでください。オーディオの音質の劣化の原因になるおそれがあります。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

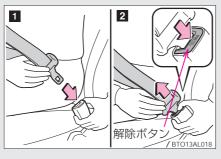
BTO13AL017

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

■ 着け方、はずし方

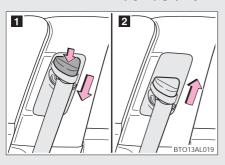
BTO13AL018

1 固定

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

2 解除

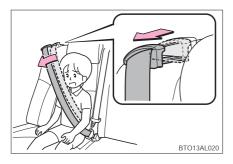
解除ボタンを押します。

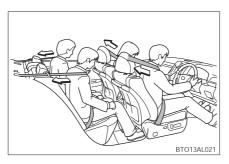
■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

BTO13AL019

1 下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトコンフォートガイド（リヤ外側席）

肩部ベルトが首の近くにかかるときは、コンフォートガイドを前方にスライドさせてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ外側席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを巻き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（フロント席）

▶ ブレーキ連動方式 PCS 装着車

急ブレーキをかけたときや、車のコントロールが不能と判断したとき、シートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。(→P. 218)

▶ レーダー方式 PCS 装着車

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

急ブレーキをかけたときや、車のコントロールが不能と判断したときも同様に作動します。(→P. 218, 231)

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 73)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 119)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 73)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝突を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは 1 つにつき一人で使用する
  お子さまでも 1 つのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- シートは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

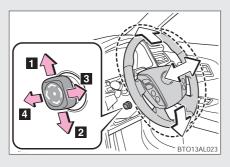
■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

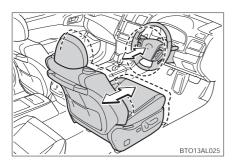
■プリクラッシュシートベルトについて

プリクラッシュシートベルトを過信しないでください。
運転するときは常に周囲の状況に注意し、安全運転を心がけてください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

1 上がる
2 下がる
3 手前に動く
4 前方に動く

パワーイージーアクセスシステム

運転者が乗りおりする際に、ハンドルと運転席シートが自動で、次のように動きます。

降車時：ハンドルが最上段、最前方に移動、運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

乗車時：ハンドル、運転席シートがもとの位置※に移動（オートリターン機能）

※ハンドルの上下前後位置、運転席シートの前後位置をお好みの位置に調整しておけば、ハンドル・シートがその位置で記憶されます。

知識

■電動チルト＆テレスコピックステアリングの作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をマイコンプリセットドライビングポジションシステムに登録すると、自動で調整されます。(→P. 65)

■ハンドル位置調整について

車両カスタマイズ機能の「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF でも、シートベルトのバックルを装着すると、ハンドルの位置を調整することができます。

■降車時の運転席シートのオートアウェイ機能について

降車時に、シートの位置が最もうしろに近い位置にある場合、オートアウェイ機能を行わない場合があります。

■オートアウェイ機能の作動条件

●次の条件を満たすと作動します。

・シフトレバーを P にする
・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする
・シートベルトのバックルをはずす
(車両カスタマイズ機能の「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ)

●作動中に次の操作をすると作動が停止します。

・シフトレバーを操作する

●作動中に次の操作をするとシートの作動のみが停止します。

・運転席のシート調整スイッチ(→P. 58)のいずれかを操作する(腰部硬さ調整スイッチは除く)
・マイコンプリセットドライビングポジションシステムの SET ボタン(→P. 65)を押す
・マイコンプリセットドライビングポジションシステムの 1 または 2 のボタン(→P. 65)を押す
・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにする
・車両を発進させる

■オートリターン機能の作動条件

●次の条件のいずれかを行うと作動します。

・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
・シートベルトのバックルを装着する
（車両カスタマイズ機能の「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ）

●作動中に次の操作をすると作動が停止します。

・マイコンプリセットドライビングポジションシステムの SET ボタン（→P. 65）を押す
・マイコンプリセットドライビングポジションシステムの 1 または 2 のボタン（→P. 65）を押す

●作動中に次のいずれかを行うとシートの作動のみが停止します。

・運転席のシート調整スイッチ（→P. 58）のいずれかを操作する（腰部硬さ調整スイッチは除く）
・車両を発進させる

●作動中に次のスイッチを操作するとハンドルの作動のみが停止します。

・ステアリングの位置調整スイッチ（→P. 78）を操作する

■パワーイージーアクセスシステムでのハンドル、シートの作動について

●オートアウェイ機能作動中・オートアウェイ機能作動終了後に、運転席のシート調整スイッチ（→P. 58）のいずれかを操作、またはマイコンプリセットドライビングポジションシステム（→P. 65）の操作をした場合、オートリターン機能は作動しません。

●エンジン始動時にハンドル、シートの作動が一時停止し、エンジン始動後に作動が再開することがあります。

・オートリターン機能作動中に、車両を発進させるとシートの作動が停止します。停止したときは、車両を停止しシートの前後位置を適切な位置に調整してください。
なお、この場合、ハンドルはリターン機能作動を継続します。

■販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

パワーイージーアクセスシステムのシートの移動を非作動にしたり、シートの移動量の変更ができます。シートの移動を非作動にした場合、パワーイージーアクセスシステムはハンドルのみの作動になります。
（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420）

警告

■走行中の警告

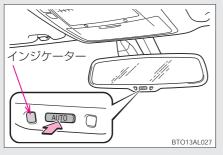
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

■パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

インナーミラー

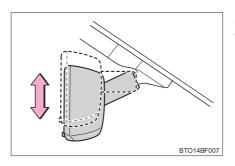
自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。

BTO13AL027

自動モードの切りかえ

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

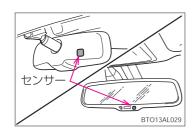
“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた

BTO14BF007

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

知識

■センサーの誤作動防止

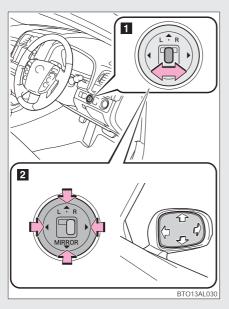
BTO13AL029

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

警告

■運転中の警告

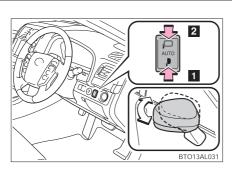
運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整ができます。

1 ミラーを選ぶ

（L：左、R：右）

2 スイッチを操作してミラー角度を上下左右に調整する

ドアミラーを格納するときは

1 格納する

2 もとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（AUTO）にすると自動モードに切りかわり、ドアの解錠・施錠と連動します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（別冊「ナビゲーションシステム取扱書／エアコン／フロントオートエアコン」をご覧ください）

■ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をマイコンプリセットドライビングポジションシステム（→P. 65）に登録すると、自動で調整されます。

■リバース連動機能

後退時にドアミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R ともに選択していない状態）にしておくと、この機能は作動しません。

■レインクリアリングミラー

- 雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。
- 次の場合、一時的に親水効果が失われますが、晴天時に太陽光を 1・2 日間あてると回復します。
  - ・ミラーの汚れをふき取ったとき
  - ・ミラーが曇ったとき
  - ・自動洗車機でワックス洗車したとき
  - ・長時間、地下駐車場など日のあたらない場所に駐車していたとき

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因になって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

●ミラーの調整をしない

●ミラーを格納したまま走らない
必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障の原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは

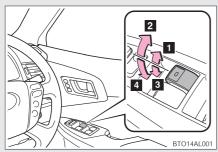
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

注意

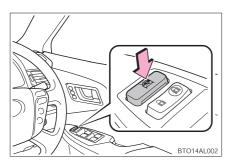
■ミラーが凍結したとき

親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める
2 自動全閉※（強く引く）
3 開ける
4 自動全開※（強く押す）

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

●車を停止し、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420)

警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ドアガラスを開閉するときは

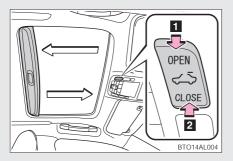
次のことをお守りください。

●運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない

●ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

ムーンルーフ*

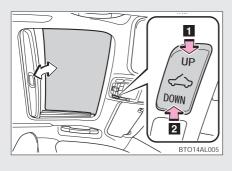
頭上のスイッチでムーンルーフを開閉、またはチルトアップ／ダウンできます。

■ 自動開閉

1 開く

2 閉まる

開くときは、全開手前位置で止まります。さらに開く場合は、スイッチをもう一度押してください。

途中で止めるには、スイッチを押します。

■ チルトアップ／ダウン

1 チルトアップ

2 チルトダウン

途中で止めるには、スイッチを押します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ムーンルーフを閉めることができないとき

故障などで挟み込み防止機能が作動してしまい、ムーンルーフを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けることで閉めることができます。

■風切音の低減

自動で開けたときに停止する位置（全開手前位置）で走行すると、風切音を低減できます。

■サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■閉め忘れ警告表示

ムーンルーフが完全に閉まっておらず、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にして、運転席ドアを開けるとマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P. 374）

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します※2。その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 スイッチから一度手を離し、再度“UP”側を押し続ける※1
ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し※2、微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420)

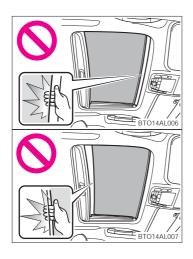
警告

■ムーンルーフを開けているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
  ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■挟み込み防止機能

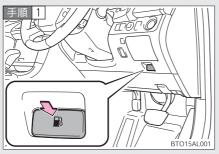
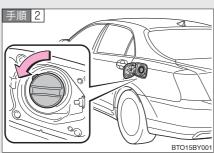
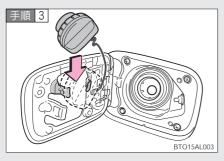
- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

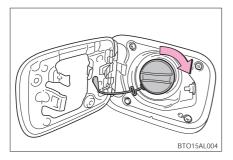
次の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にして、ドアとドアガラスを閉めてください。

■ 給油口の開け方

給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

BTO15AL004

キャップを"カチッ"と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

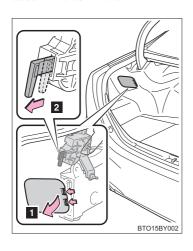
■燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■燃料タンク容量

約 71 L

■給油口が車内から開けられないときは

BTO15BY002

車内のスイッチを押しても給油口が開かないときは、トランク内にあるカバーを取りはずし（1）、その穴の上側にあるレバーを引きます（2）。

⚠ 警告

■給油について

給油前には次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●車体などの金属部分にふれて体の静電気を除去する
  放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- ●キャップをゆるめたときに、"シュー" という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
  キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- ●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- ●気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- ●喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- ●車内にもどったり、帯電している人やものにふれない
  再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

- ●給油をするときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- ●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

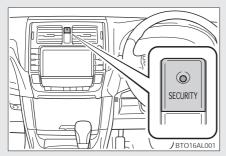
⚠ 注意

■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

"エンジン スタート ストップ" スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、"エンジン スタート ストップ" スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティインジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

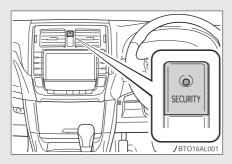
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

● 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、メカニカルキーを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき

● ボンネットが開けられたとき

● 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

G-BOOK mX Pro をご契約のお客様は、オートアラームが作動した場合、E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、「ナビゲーションシステム取扱書／ G-BOOK オンラインサービス／ G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

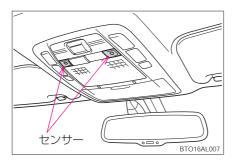
オートアラームが設定されるとセキュリティインジケーターは点灯から点滅にかわり、同時に侵入センサーが作動します。

■ オートアラームの設定を解除および作動を停止するには

次のいずれかを行ってください。

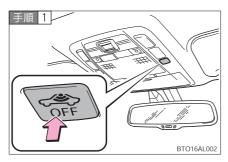
● ドアまたはトランクを解錠する

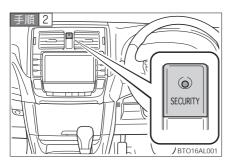
● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

侵入センサー

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵人者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。
このシステムは車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。
車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

■ 侵入センサーを作動させるには

オートアラームを設定すると侵入センサーが作動します。
(→P. 100)

■ 侵入センサーを停止してオートアラームを設定するには

"エンジン スタート ストップ"スイッチをOFFにし、侵入センサーOFFスイッチを押す

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。もう一度スイッチを押すと侵入センサーは再びセットされます。

セキュリティインジケーターが点滅しているあいだ（最大5分間）に、ドア・トランク・ボンネットを閉め施錠する

侵入センサーを停止してアラームを設定するには、アラームを設定するたびに侵入センサーOFFスイッチを押す必要があります。

知識

■ **メンテナンスについて**

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ **ドアを施錠する前の確認**

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

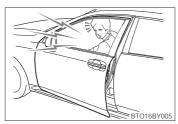
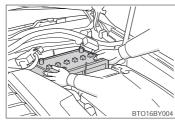
●車内に人が乗っていないか

●ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか

●車内に貴重品などを放置していないか

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■オートアラームの作動について

次のような場合オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除、作動を停止する操作を行ってください。

●車内に残った人が、ドアやトランク、ボンネットを開けたとき

●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

●オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。

●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■侵入センサーの停止・復帰について

●侵入センサーを停止しても、オートアラームは作動します。

●侵入センサーを停止したあとに“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーが復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

■G-BOOK mX Pro（ご契約のお客様のみ）

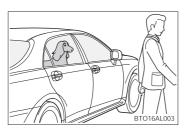
- うっかり通知機能によって、ドアロックのかけ忘れやウインドウの閉め忘れ、非常点滅灯の消し忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
  うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。
- リモート確認機能によって、ドア・トランクの開閉やドアロックの状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

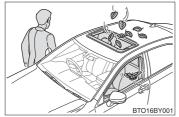
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ G-BOOK オンラインサービス／ G-Security」を参照してください。

注意

■侵入センサーの検知について

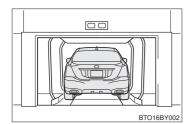
次のような場合には、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

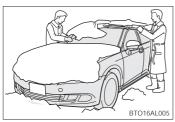
BTO16AL003

- 車内に乗員やペットなどを残して、車両から離れる場合

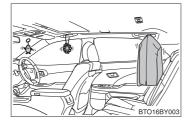
BTO16BY001

- ドアガラスやムーンルーフ*などが開いている場合
  次のものを検知することがあります。
  ・車内に入った落ち葉・虫・風など
  ・他車の侵入センサーなどが発する超音波
  ・車外の歩行者の動き

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

BTO16BY002

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき

BTO16AL005

●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

BTO16BY003

●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にあるとき

●高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

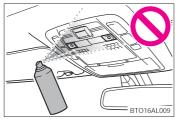
●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車内に伝わったとき

⚠ 注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

BTO16AL008

●センサーの穴をふさがない

BTO16AL009

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しない

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 58）
2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 58）
3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 58）
4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 78）
5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる（→ P. 68）
6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 73）

警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

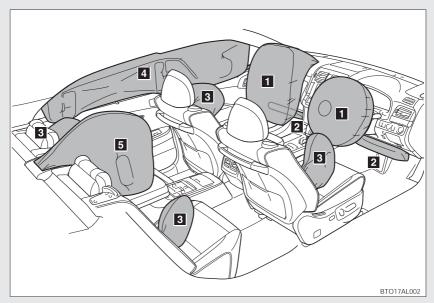
●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

4 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭への衝撃を緩和）

▶ SRS 後席センターエアバッグ（４席車両）

5 SRS 後席センターエアバッグ
（リヤ席乗員の頭や肩などへの衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、リヤ席、フロントピラー、ルーフサイドレール、リヤコンソールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。
  エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-BOOK mX Pro をご契約のお客様は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱書／ G-BOOK オンラインサービス／ヘルプネット」をご覧ください。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

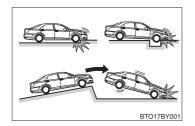
- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRSエアバッグが作動するとき(SRSサイドエアバッグ&SRSカーテンシールドエアバッグ・SRS 後席センターエアバッグ)

SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグ・SRS 後席センターエアバッグは、衝撃の強さが設定値(約 1.5t の車両が、約 20 〜 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値)以上の場合に作動します。

■衝突以外で作動するとき(フロント SRS エアバッグ)

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

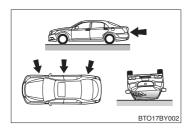
BTO17BY001

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき(フロント SRS エアバッグ)

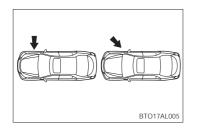
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

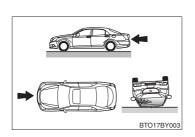
BTO17BY002

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■SRSエアバッグが作動しないとき(SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ・SRS 後席センターエアバッグ)

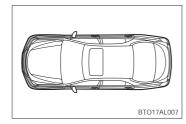
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグ・SRS 後席センターエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

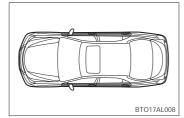
SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグ・SRS 後席センターエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

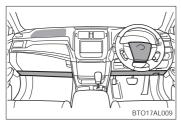
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

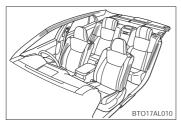
次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

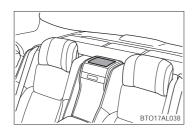
●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

BTO17AL007

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17AL008

●SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグ・SRS 後席センターエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17AL009

●ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近、インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO17AL010

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS 後席センターエアバッグが内蔵されているリヤコンソール部が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→P. 128)

警告

■SRS エアバッグについて

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない

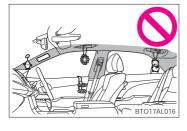
●助手席や、リヤ外側席でドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

警告

■SRS エアバッグについて

●リヤアッパーコンソールボックス上部に頭や肩をもたれさせない

●お子さまをSRS後席センターエアバッグの前に立たせたり、座らせたりしない

●ダッシュボード、ステアリングパッド部、インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

●ドア、フロントガラス、ドアガラス、フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない

警告

■SRS エアバッグについて

●リヤアッパーコンソールボックス上部などには何も取り付けたり、置いたりしない

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているためふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとにもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイドレール、リヤコンソール周辺の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の不適切な修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

● お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。

● 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。

● この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート

BTO17AL017

ECE R44 基準のグループ 0、0^{+} に相当

▶ チャイルドシート

BTO17AL018

ECE R44 基準のグループ 0^{+}、Ⅰ に相当

▶ ジュニアシート

BTO17AL019

ECE R44 基準のグループ、Ⅱ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

<table>
<tr><th rowspan="4">質量グループ</th><th colspan="4">着席位置（または他の場所）</th></tr>
<tr><th rowspan="2">フロントシート</th><th colspan="3">リヤシート</th></tr>
<tr><th>４人乗り車</th><th colspan="2">５人乗り車</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>左右席</th><th>左右席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0
（10kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>U</td><td>UF</td></tr>
<tr><td>0+
（13kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>U</td><td>UF</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅰ
（9 ～ 18kg）</td><td>前向き UF</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">UF</td></tr>
<tr><td>うしろ向き ×</td></tr>
<tr><td>Ⅱ
（15 ～ 25kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>U</td><td>UF</td></tr>
<tr><td>Ⅲ
（22 ～ 36kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>U</td><td>UF</td></tr>
</table>

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0^{+} （13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 121）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 122）を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

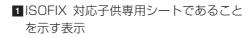
（例 2）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 123）で指定されている製品を使用してください。

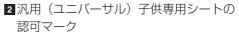
子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

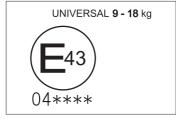
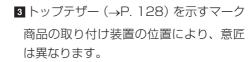
※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 128）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

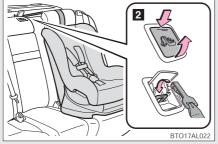
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシート外側席に取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書に従ってください。

BTO17AL021

シートベルトによる取り付け
(→P. 129)

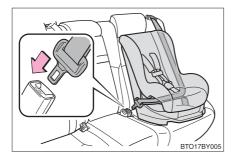
BTO17AL022

1 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→P. 129)

リヤシートの外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

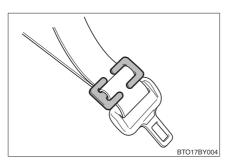
2 トップテザーアンカー
(→P. 129)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシート後方のパッケージトレイに装備されています。

シートベルトで固定する

BTO17BY005

リクライニングしていないことを確認してから、チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む
ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

BTO17BY004

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

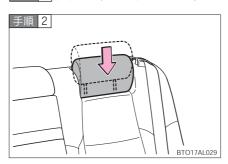
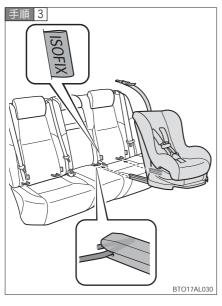
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

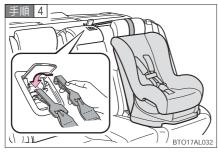
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

手順 1 リクライニングしていないことを確認しておく

手順 2

BTO17AL029

ヘッドレストをいちばん下まで下げる

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションと背もたれのあいだにあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品付属の取扱説明書に従ってください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認する

⚠警告

■チャイルドシートについて

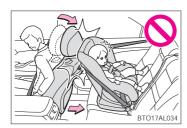
- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

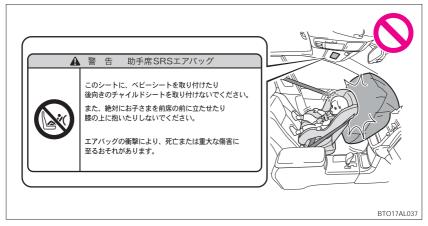
■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているかを確認してください。

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

BTO17AL034

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。

BTO17AL037

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

BTO17AL036

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに 2

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける（→P. 147）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 153）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 159）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする（→P. 153）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 159）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 153）

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてエンジンを停止する（→P. 148）

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転をするには

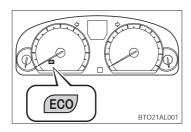
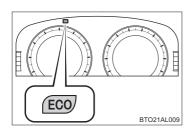
エコドライブインジケーターランプが点灯すると環境に配慮したアクセル操作をしていることをお知らせします。
必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。
なお、次の 2 つの条件を満たすと作動します。

●シフトレバーを D で走行中

●走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード（→P. 154）

▶ オプティトロンメーター

▶ ファイングラフィックメーター

警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因になるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

警告

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーをDに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNにすると、エンジンの動力がトランスミッションに伝わらなくなるため、エンジンブレーキが効かなくなります。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもステアリングやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はステアリングとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 412を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 153)

●坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。

●ハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。

●重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

警告

■すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を貼り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後はマフラーにふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
  特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気管の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■**ブレーキをかけるときは**

▶FR 車

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●ブレーキシステムは３つの独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行せずに、ただちにブレーキの修理を受けてください。

▶4WD 車

●万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■**万一脱輪したときは（4WD 車）**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■運転中は

- ●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- ●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- ●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ●ハンドルがとられる
- ●異常な振動がある
- ●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は、タイヤを交換してください。（→P. 386）

⚠ 注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

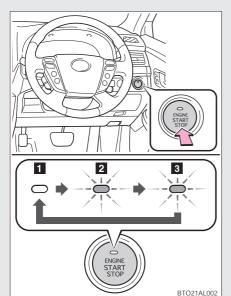
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、トランスファー（4WD 車）、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、モードの切りかえ、またはエンジンの始動ができます。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

シフトレバーが P 以外のときはOFF になりません。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏み、スイッチ上のインジケーターが緑に点灯することを確認する

緑に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
どのモードからでもエンジンを始動できます。

■ エンジン停止のしかた

手順 1 車両を停止させる

手順 2 シフトレバーを P の位置にする

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 159）

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す

手順 5 ブレーキペダルから足を離した状態にして“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーを P の位置にする

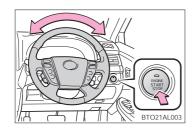
手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを 1 回押す

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

知識

■ステアリングロックについて

“エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。" エンジン スタート ストップ " スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ステアリングを左右に動かしながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 99)

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 1 時間以上アクセサリーモードかイグニッション ON モード（エンジン始動していない状態）にしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ ”スイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの操作について

“ エンジン スタート ストップ”スイッチを操作する際は、1 回ずつ短く確実に押してください。確実に押せていない場合や早く連続して押した場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■クランキングホールド機能

エンジン始動操作をしてすぐ手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大 25 秒間保持します。
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約 30 秒間です。約 30 秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 36

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 346

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 42

■ご留意いただきたいこと

→P. 37

⚠警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンストなどで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、３秒以上“エンジン スタート ストップ”スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもステアリングやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はステアリングとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが消灯していない場合、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF になっていません。“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●シフトレバーがＰ以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがＰ以外でエンジンを停止させた場合、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

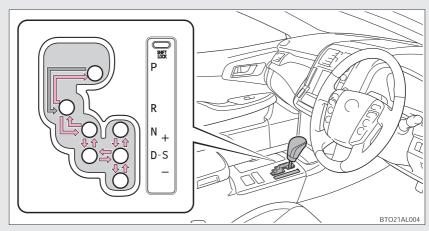
●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの操作について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかに販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

⇦ “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

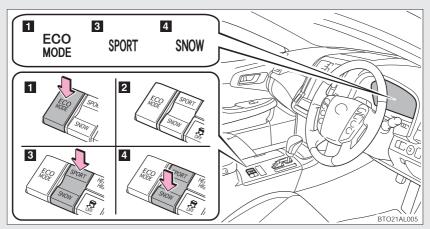
■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※1
S	S モード走行※2 (→P. 155)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、エンジンブレーキ力を切りかえたり、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えた走行ができます。

■ 走行モードの選択

走行使用条件に合わせて次のモードを選択できます。

1 エコドライブモード

車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。同時に、マルチインフォメーションディスプレイの表示が平均燃費画面に切りかわります。

2 通常走行モード

エコドライブモード、スポーツモード、スノーモードのすべてが OFF の状態です。

3 スポーツモード

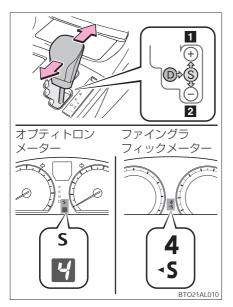
カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。

4 スノーモード

雪道などすべりやすい路面での発進や走行に適しています。

各モードを OFF にするには、もう一度同じモードのスイッチを押すか、他のモードのスイッチを押します。
また、エコドライブモードが ON の状態は“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしても記憶されています。

S モードでのシフトレンジ切りかえ

シフトレバーを S の位置にして、シフトレバーを操作します。

1 シフトレンジアップ

2 シフトレンジダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 レンジずつかわります。
シフトレバーをシフトレンジアップ側へ1秒以上保持すると8レンジ(FR車)、6 レンジ（4WD 車）に設定されます。
1 ～ 8（FR 車)、1 ～ 6（4WD 車）のあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて 7 レンジ（FR 車)、6 レンジ（FR 車)、5 レンジまたは 4 レンジに設定されます。ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが 3 レンジまたは 2 レンジになる場合があります。
(→P. 157)

■ シフトレンジ機能

シフトレンジ	機能
8 (FR 車)	スピードや走行条件に応じて、1 速から 8 速のギヤが自動的にかわります。
7 (FR 車)	スピードや走行条件に応じて、1 速から 7 速のギヤが自動的にかわります。
6	スピードや走行条件に応じて、1 速から 6 速のギヤが自動的にかわります。
5	スピードや走行条件に応じて、1 速から 5 速のギヤが自動的にかわります。
4	スピードや走行条件に応じて、1 速から 4 速のギヤが自動的にかわります。
3	スピードや走行条件に応じて、1 速から 3 速のギヤが自動的にかわります。
2	スピードや走行条件に応じて、1 速から 2 速のギヤが自動的にかわります。
1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■S モードに関する自動変速について

1 ～ 7 レンジ（FR 車)、1 ～ 5 レンジ（4WD 車）が選択された状態で加速し、エンジン回転数がレッドゾーン付近になると、自動的に 1 レンジずつシフトレンジアップされます。

■シフトレンジダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトレンジダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 398

■クルーズコントロール*またはレーダークルーズコントロール*を使って走行しているとき

S モード走行時に 7（FR 車）、6（FR 車）、5 または 4 へシフトレンジダウンしてもエンジンブレーキは効きません。

■NAVI・AI-SHIFT について

ナビゲーションシステムからの情報を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ GPS ボイスナビゲーション／ナビを使いこなすために」をご覧ください。

■AI-SHIFT について

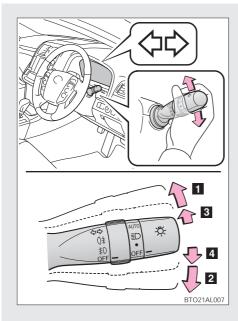
AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。（シフトレバーを S にすると、機能が解除されます）

⚠ 警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）

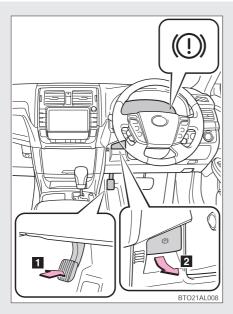
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかける

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

2 パーキングブレーキを解除する

右足でブレーキペダルを踏みながら、解除レバーを引きます。

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 253）の記載を参照してください。

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→P. 373

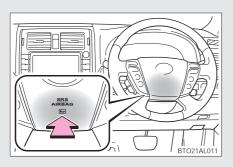
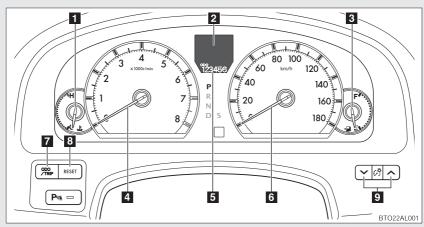
警告

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

計器類

▶ オプティトロンメーター

"エンジン スタート ストップ" スイッチをイグニッション ON モードにすると、メーターが点灯します。

1 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

→P.171

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

5 オドメーター、トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

6 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

7 オドメーター、トリップメーター表示切りかえスイッチ

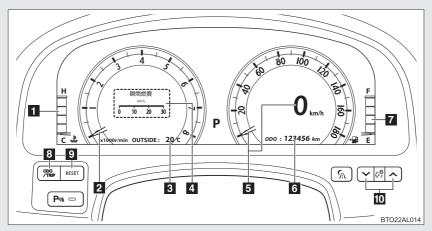
オドメーター、トリップメーターの表示の切りかえができます。

8 トリップメーターリセットスイッチ

ボタンを押し続けると、トリップメーターをリセットすることができます。

9 メーター明るさ調整スイッチ

メーター照明の明るさを調整できます。

▶ ファイングラフィックメーター

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにすると、メーターが表示されます。

1 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

2 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

3 外気温度表示

外気温度を－ 30 ℃から 50 ℃のあいだで表示します。

4 マルチインフォメーションディスプレイ

→P.171

5 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

6 オドメーター、トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

7 燃料計

燃料残量を示します。

8 オドメーター、トリップメーター表示切りかえスイッチ

オドメーター、トリップメーターの表示の切りかえができます。

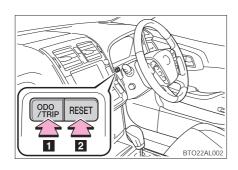
9 トリップメーターリセットスイッチ

ボタンを押し続けると、トリップメーターをリセットすることができます。

10 メーター明るさ調整スイッチ

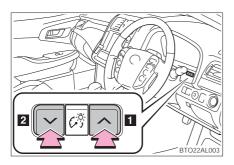
メーター照明の明るさを調整できます。

ナイトビュー装着車にお乗りの方は、「ナイトビュー」(→P.241)も併せてご覧ください。

オドメーター／トリップメーター切りかえ、トリップメーターリセットスイッチ

1 表示を切りかえる

2 トリップメーターの走行距離が 0 にもどる(長押し)

メーター明るさ調整スイッチ

メーター照明の明るさを調整できます。

1 明るくなる

2 暗くなる

マルチインフォメーションディスプレイに明るさ調整画面が表示されます。

知識

■ メーターの明るさの調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

■ 減光について

周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メーター照明が減光されます。
周囲が明るいとき（昼間など）車幅灯を点灯しても、メータ照明は減光されません。

■ 外気温表示について（ファイングラフィックメーター）

- 外気温の測定が正しく行われないときは「ーー℃」または「 E ℃」と表示されます。
- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - ・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
  - ・外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

▶ オプティトロンメーター

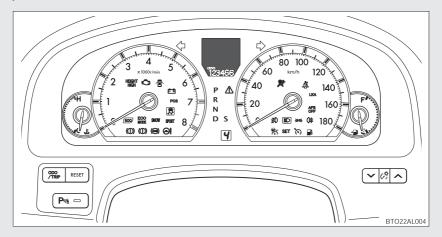
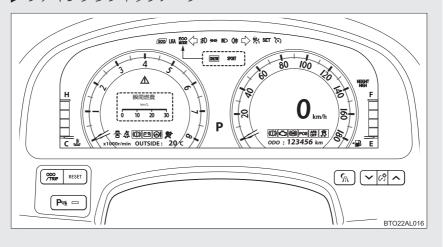
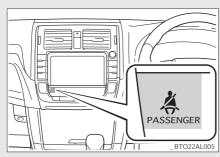
●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。（→P.408）

▶ ファイングラフィックメーター

●水温警告灯が赤色に点滅・点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。（→P.408）

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ オプティトロンメーター

▶ ファイングラフィックメーター

▶ センターパネル

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.158, 353）

クルーズコントロール表示灯（→P.186, 189）

尾灯表示灯（→P.177）

レーダークルーズコントロール表示灯*（→P.189）

ヘッドライト上向き表示灯（→P.177）

クルーズ SET 表示灯（→P.186, 189）

フロントフォグライト表示灯（→P.181）

LKA 表示灯*（→P.199）

リヤフォグライト表示灯*（→P.181）

※エアサスペンション HIGH 表示灯（→P.205）

※AFS OFF 表示灯（→P.178）

※スリップ表示灯（→P.209）

※エコドライブインジケーターランプ（→P.138）

シフトポジション表示灯（オプティトロンメーター）（→P.155）

ECO MODE 表示灯（→P.154）

※SPORT 表示灯（→P.154）

シフトポジション表示灯（ファイングラフィックメーター）（→P.155）

SNOW 表示灯（→P.154）

※作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのとき、または点滅する場合はシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P.362)

※1 作動確認のために " エンジン スタート ストップ " スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。(ファイングラフィックメーターのマスターウォーニングライトを除く)

※2 作動確認のために " エンジン スタート ストップ " スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。
点滅しているときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
点灯したままのときはプリクラッシュブレーキ OFF スイッチが OFF になっているか、一時的に機能していない状態です。(→P.221, 374)

※3 " エンジン スタート ストップ " スイッチがイグニッション ON モードのとき、半ドア警告灯の点灯に併せて、マルチインフォメーションディスプレイ上に半ドア警告表示が表示されます。(→P.373)

※4 ファイングラフィックメーターは、燃料残量警告灯点灯時、燃料計の表示も黄色にかわります。

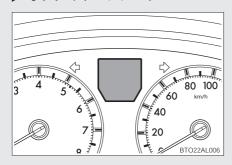
※5 エンジン冷却水温が低いときは青色に表示され、高いときは赤色の表示にかわり、水温計の表示も赤色にかわります。

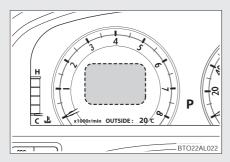
警告

■**安全装置の警告灯が点灯しないときは**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モード にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、次のような情報を表示します。

▶ オプティトロンメーター

▶ ファイングラフィックメーター

● 外気温表示（オプティトロンメーター）（→P.173）

● トリップインフォメーション（→P.173, 174）

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

● レーダークルーズコントロール表示＊（→P.189）

レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

● レーンキーピングアシスト表示＊（→P.199）

レーンキーピングアシスト使用時に自動で表示されます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

● クリアランスソナー表示*
（ナビゲーションシステム取扱書／クリアランスソナー参照）

クリアランスソナー使用時に、障害物を感知すると自動で表示されます。

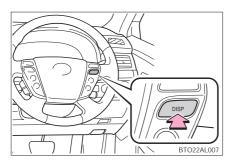
● 警告メッセージ（→P.367）

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

● メーター明るさ調整（→P.164）

● レーン表示カスタマイズ（ファイングラフィックメーター）
（→P.174）

レーン表示（→P.176）の有無を設定できます。

表示の切りかえ

表示を切りかえるには、DISP スイッチを押します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

● 平均燃費／エコドライブインジケーターゾーン表示

リセットしてからの平均燃費とエコドライブインジケーターゾーン表示を表示します。

・ リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。「区間燃費画面」もリセットされます。「区間燃費画面」については別冊「ナビゲーションシステム取扱書／情報／情報」を参照してください。

▶ オプティトロンメーター　　▶ ファイングラフィックメーター

● 外気温（オプティトロンメーター）

外気温を表示します。

－ 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

● 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・ 表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

▶ オプティトロンメーター　　▶ ファイングラフィックメーター

航続可能距離
100 km

● 給油後平均燃費

給油してからの平均燃費を表示します。

▶ オプティトロンメーター

▶ ファイングラフィックメーター

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

▶ オプティトロンメーター

▶ ファイングラフィックメーター

● レーン表示カスタマイズ（ファイングラフィックメーター）

レーン表示設定
DISPスイッチ
長押しで変更します
レーン表示　する

レーン表示の有無を設定できます。

・レーン表示設定画面表示中に DISP スイッチを押し続けると設定を変更できます。
・ナイトビュー画面表示中、走行中は設定を変更できません。

知識

■外気温表示について（オプティトロンメーター）

●外気温の測定が正しく行われないときは「ーー℃」または「 E ℃」と表示されます。

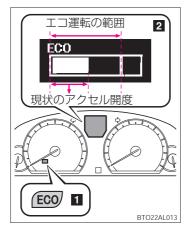
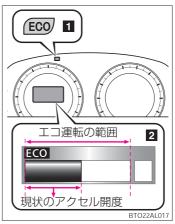
●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■エコドライブインジケーターゾーン表示について

環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。エコ運転中は、エコドライブインジケーターランプ（1）が点灯します。
アクセルの踏み過ぎなど、エコ運転の範囲をこえた場合には、エコドライブインジケーターゾーン表示（2）の右側が点滅し、エコドライブインジケーターランプが消灯します。
なお、次の 2 つの条件を満たすと作動します。

●シフトレバーを D で走行中

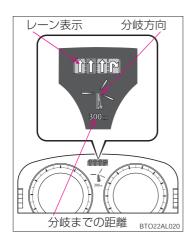
●走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード

■**バッテリー端子の脱着をしたときは**

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

・ 平均燃費
・ 航続可能距離

■**液晶ディスプレイについて**

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■**レーン表示、交差点案内表示について(ファイングラフィックメーター)**

●レーン表示は、ナビゲーションシステムの目的地案内の設定の有無にかかわらず表示されます。
マルチインフォメーションディスプレイで、レーン表示をする/しないを設定できます。(→P.174)

●ナビゲーションシステムで、目的地案内中に分岐する交差点にさしかかると、分岐までの距離、分岐方向が表示されます。

注意

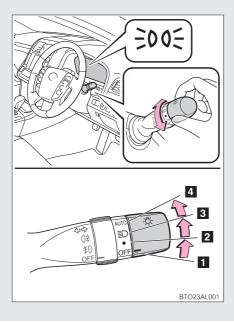
■**低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

■**レーン表示、交差点案内表示の形状について**

レーン表示、交差点案内表示の形状は、実際の形状と異なる場合があります。

ライトスイッチ

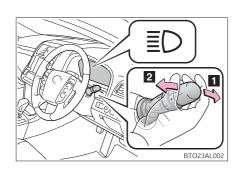
自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

1 消灯

2 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯

3 上記ライトとヘッドライトを点灯

4 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯

（“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき）

ハイビームにする

1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切りかえ

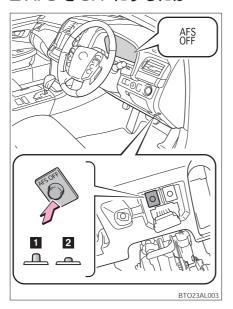
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ロービームの点灯・消灯にかかわらず、ハイビームが点灯します（ロービーム消灯時は、ハイビーム・ロービームともに点灯します）。レバーを離すと消灯します。

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ AFS を OFF にするには

1 ON

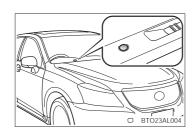
2 OFF

メーター内のAFS OFF表示灯が点灯します。

知識

■AFS の作動条件

車速が約 10km/h 以上で作動開始となり、車速が約 5km/h 未満になると作動は停止します。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。
再びライトを点灯する場合は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420)

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

■AFS OFF スイッチについて

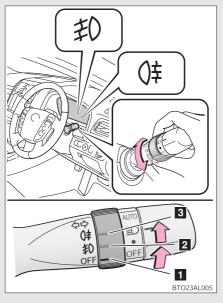
AFS OFFスイッチのとなりに、同じ形状のプリクラッシュブレーキOFFスイッチ*（→P. 221）があるため、押し間違えないよう注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フォグライトスイッチ

雨・霧・雪などで視界が悪いときに、フロントフォグライトはヘッドライトの補助として、リヤフォグライト*は後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

■ フロント＆リヤフォグライトスイッチ

BTO23AL005

1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

3 フロント＆リヤフォグライト点灯

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■点灯条件

●ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

●リヤフォグライトは、フロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

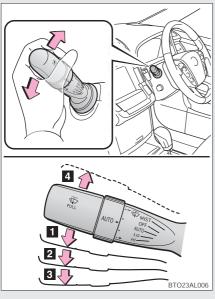
●リヤフォグライトは、後続車に追突されるのを防ぐため、自分の車の存在を知らせる赤色灯です。

●リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

●視界が悪いときでも、市街地走行などにおいて後続車の迷惑になる場合は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

1 オート作動（AUTO）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。
（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します）

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

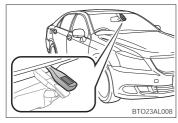
■車速による作動への影響

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）がかわります。
LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

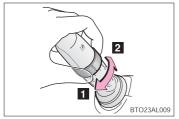
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■AUTO 作動について

BTO23AL008

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的に当たるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。

BTO23AL009

●ツマミを回すとセンサーの感度が調整できます。

1 雨滴センサーの感度調整（高）

2 雨滴センサーの感度調整（低）

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのときワイパースイッチを AUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 90℃以上または－ 15℃以下のときは AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

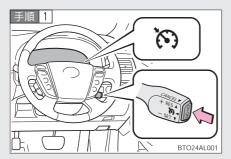
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

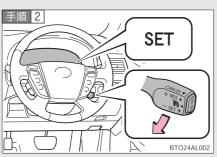
■ノズルがつまったときは

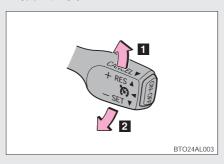
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

クルーズコントロール *

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。
先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

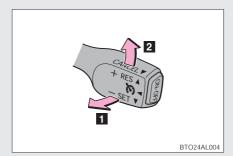
■ 速度を設定する

ON-OFF スイッチを ON にする

OFF にするには再びスイッチを押します。

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

■ 設定速度をかえる

1 増速

2 減速

希望の車速になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整（約 1.6 km/h ずつ）できます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 定速走行を解除する・復帰させる

1 解除

レバーを手前に引きます。

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、もとの制御状態にもどります。ただし、車速が40km/h 未満の場合は復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーがDまたはSの4～8レンジ(FR車)、4～6レンジ(4WD車)のとき設定できます。

●車速は約 40 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の車速が約 16 km/h 以上低下した

●車速が約 40 km/h 未満になった

●VSC が働いた

■定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチを OFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール *

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードで一定の速度で走行できます。
先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

■ 制御モードを選択する

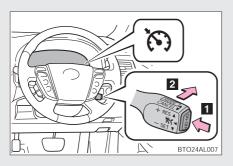
● 車間制御モードを選択する

ON-OFF スイッチを ON にする

OFF にするには再びスイッチを押します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

● 定速制御モードを選択する

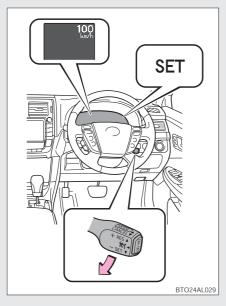
BTO24AL007

1 ON-OFF スイッチを ON にする

2 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間長押し）

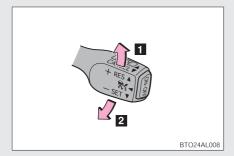
OFF にするには再びスイッチを押します。

ON-OFFスイッチがONになるたびに車間制御モードに再設定されます。

■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する

BTO24AL029

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

■ 設定速度をかえるには

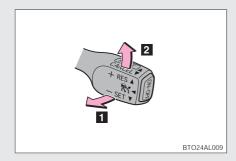
BTO24AL008

1 増速

2 減速

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

車間制御モード中にレバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整（約 1 km/h ずつ）できます。

定速制御モード中にレバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整(約 1.6 km/h ずつ)できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには

BTO24AL009

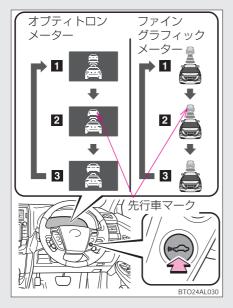
1 解除

レバーを手前に引きます。

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、もとの制御状態にもどります。ただし、車速が 40km/h 未満の場合は復帰しません。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）

スイッチを押すごとに車間距離を切りかえる

1 長い

2 中間

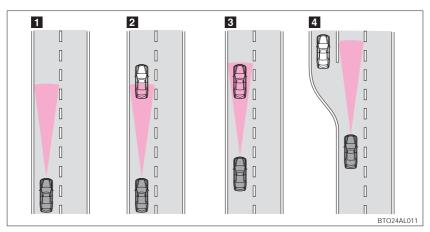
3 短い

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードになるたびに 1 に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。

1 定速走行（先行車がいないとき）：
100 km/h に設定した場合

運転者が設定した車速で定速走行します。

2 減速走行（設定した車速より遅い先行車が現れたとき）：
100 km/h で定速走行時に、80 km/h の先行車がいる場合

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報（→P. 375）を鳴らします。

3 追従走行（設定した車速より遅い先行車に追従するとき）：
100 km/h に設定しているときに、80 km/h の先行車がいる場合

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行（セットした車速より遅い先行車がいなくなったとき）：
100 km/h に設定しているときに、80 km/h の先行車がいなくなった場合

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

知識

■レーダークルーズコントロールの警告灯・警告表示・警報

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告表示、警報で注意をうながします。（→P. 367）

■設定条件について

●シフトレバーがＤまたはＳの４～８レンジ(FR車)、4～6レンジ(4WD車)のとき設定できます。

●車速は約 50 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

●車速が約 40 km/h 未満になった

●VSC が働いた

●レーダーセンサーの汚れが判定された

●ワイパーが HI（高速）で作動した

●走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の車速が約 16 km/h 以上低下した

●車速が約 40 km/h 未満になった

●VSC が働いた

■車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 192)(車速 80 km/h で走行している場合)
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

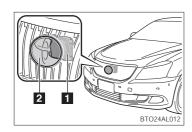
車間距離選択	車間距離
長	約 50 m
中	約 40 m
短	約 30 m

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく働かせるためにレーダーセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

1 レーダーセンサー

2 グリルカバー

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
  運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

- 運転者が判断する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

- 運転者が操作する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチを OFF にしてください。

警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ●交通量の多い道
- ●急カーブのある道
- ●曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- ●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- ●高速道路の出入り口
- ●レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- ●接近警報がひんぱんに鳴るとき

■レーダーセンサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 375）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ●先行車が急に割り込んできたとき
- ●先行車が低速で走行中のとき
- ●停車中の車がいるとき
- ●先行車の車両のうしろ部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- ●同じ車線を二輪車が走行中のとき

⚠ 警告

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ●周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- ●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- ●カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ●ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合
- ●先行車が急ブレーキをかけた場合

■レーダーセンサーを正しく働かせるためには

レーダーセンサーとグリルカバーには次のことをしないでください。
レーダーセンサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ●何か貼ったり、取り付ける
- ●汚れたままにしておく
- ●分解したり、強い衝撃を与える
- ●改造や塗装
- ●純正品以外の部品に交換する
- ●レーダーセンサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

LKA（レーンキーピングアシスト）*

白 (黄) 線の整備された高速道路や自動車専用道路を走行中に、白線認識用カメラを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

■ 車線逸脱警報機能

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、ピピピピ…というブザーやマルチインフォメーションディスプレイ表示、ハンドルの動きによる体感警報により注意をうながします。

■ 車線維持支援機能

車線の中央付近を走行する際に、小さい力の範囲で操舵力を付加することにより運転者のハンドル操作を支援します。

■ 設定のしかた

LKA スイッチを押すと、白（黄）線の認識状態、車速、レーダークルーズコントロール (車間制御モード) の設定状況に応じて車線逸脱警報機能と車線維持支援機能が作動します。

スイッチを押す

解除するには再度スイッチを押します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 各機能の作動条件

LKA スイッチ設定	レーダークルーズコントロールのシステム設定	車線逸脱警報機能	車線維持支援機能
		車速が約 50km/h ～	車速が約 65 ～ 100km/h
ON	OFF	○	×
	ON 設定車速が約 64 km/h 以下で車間制御走行しているとき	○	×
	ON 設定車速が約 65 km/h 以上で車間制御走行しているとき	○	○

マルチインフォメーションディスプレイ表示

LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。

1 レーダークルーズコントロール表示

2 車線表示

線が細いとき：白（黄）線が認識できていないまたは、機能を一時解除している

線が太いとき：車線逸脱警報機能作動中

車線維持支援機能作動中

ハンドル表示が表示されます。

知識

■機能の一時解除

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- ●方向指示レバーを操作したとき
- ●車線変更に相当する程度にハンドルを操作したとき
- ●ブレーキペダルを踏んだとき
  レーダークルーズコントロールが解除されるため、ブレーキ操作を止めても車線維持支援機能は再開しません。
- ●作動条件以外の車速になったとき （車線維持支援機能の作動中はブザーあり）
- ●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき （車線維持支援機能の作動中はブザーあり）
- ●ワイパーが連続で作動したとき （車線維持支援機能の作動中はブザーあり）
- ●車線維持支援機能の作動中に手放し運転警告が作動したとき （ブザーあり）
- ●車線逸脱警報機能が作動したとき
  車線逸脱警報機能が作動したあとは、数秒間経過するまで機能は再開しません。
- ●車線維持支援機能の作動中にレーダークルーズコントロールの車間制御走行が自動解除されたとき（→P. 194）

■手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒、手放し運転と判断された場合は、ピピッとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。

■炎天下に駐車したとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→P. 204）の温度が適温になると作動開始となるので、いったん LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■LKA 作動中について

LKA 作動中に運転者のハンドル操作が加えられた場合は、作動を中断しその操作を優先します。

警告

■LKA をお使いになる前に

LKA を過信しないでください。前方不注意を補助するものではないので、常にハンドル操作をして進路を修正し、安全運転に心がけてください。

■正しく作動させるには

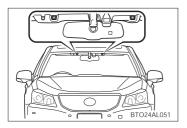
次の場合に LKA を使用すると、システムが正しく機能しないため、LKA を OFF にして走行してください。なお、手放し運転を行った場合は十分な性能が確保できません。

- 白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 雨、雪、霧、逆光などで白（黄）線が見えにくいとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- 検札所や料金所手前など、白（黄）線が途切れるとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 道路補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまったわだちなど、白（黄）線と紛らわしい線が見えるとき
- 高速道路などの本線 (走行車線、追いこし車線) 以外の車線を走行するとき
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- 反射ポールなどの構造物がある場合
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき
- 対向車のヘッドライト光がカメラに入射した場合

警告

- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行しているとき
- タイヤ、サスペンションの改造など、指定された部品以外を装着した際は、十分な性能を確保できません。

注意

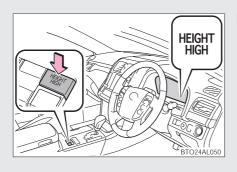
■白線認識用カメラ

LKA の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
  雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- 防眩ミラーの位置をカメラのレンズ前に調整しない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスタースイッチでガラスの曇りを取る
- ダッシュボードの上にものを置かない
  フロントガラスに写り込んだ映像を、白線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにシールなどを貼らない

電子制御エアサスペンション

路面の状態や走行状況に合わせて車高を選択できます。

車高は、乗員や荷物重量にかかわらず選択したレベルを維持します。

HIGH モード

メーター内のエアサスペンション HIGH 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと OFF になります。

知識

■AVS について (AVS: アダプティブバリアブルサスペンションシステム)

AVS は減衰力応答性に優れたショックアブソーバーとコンピューターによる減衰力制御を組み合わせたシステムです。路面の凸凹やハンドル操作などによる車両の挙動変化をショックアブソーバーが４輪独立で抑制・吸収することにより、最適な減衰力制御を行い、ソフトな乗り心地とフラットな操縦安定性を両立させています。

■ナビ協調制御について

AVS の制御に加え、ナビゲーションシステムの情報を利用し、下記の制御を行います。

●ナビゲーションの道路コーナー情報に基づいて、旋回直前にショックアブソーバーの減衰力を最適に制御することにより、コーナーリング性能を向上させます。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路にて制御を実施します。

●センサーにより感知した路面の段差などの情報を地図に記録し、次から同じルートを走る際には、そのデータを参照した最適な減衰力制御によって、なめらかな乗り心地をもたらします。ナビゲーションが高速道路を走行していると判断しているときで、スポーツモードを選択しているときのみ学習結果を反映した制御を行います。

■エアサスペンション用コンプレッサーの作動音について

乗車や荷物の積み込みなどによって車高が低下したときや HIGH モードを選択したときなどに、コンプレッサーが作動して“ヴィーン”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

警告

■エアサスペンションについて

次の状況ではエンジンを停止してください。

●縁石などに乗り上げて駐車するとき

●脱輪したとき

●ジャッキアップするとき

●レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードのままにしておくと、車高がかわり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ ナビ・ブレーキアシスト

ナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシストです。
別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ GPS ボイスナビゲーション／地図の操作」を参照してください。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

→P. 215

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ 緊急ブレーキシグナル

→P. 217

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）*

車速やハンドルの動きに合わせてタイヤの切れる角度を制御します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS 、TRC 、VSC、EPS、VGRS を総合的に制御します。すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ブレーキ、エンジン出力、ハンドル操作力、タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→P. 218

■ 前側方プリクラッシュセーフティシステム*

→P. 231

■ 後方プリクラッシュセーフティシステム*

→P. 237

■ ナイトビュー（歩行者検知機能付）*

→P. 241

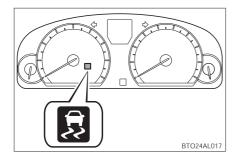
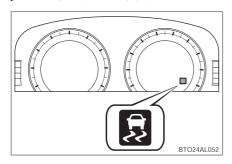
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき

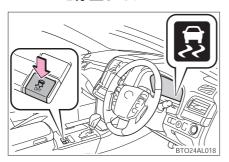
車両が横すべりしそうになったとき、後輪が空転したとき、ヒルスタートアシストコントロールを作動させ坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

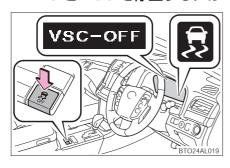
ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

▶ オプティトロンメーター

▶ ファイングラフィックメーター

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRCを停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持します。

スリップ表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにVSC-OFF 表示が表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

知識

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止したあと、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると自動的に TRC と VSC は作動復帰状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が速くなると TRC は作動を再開します。

■TRC と VSC OFF の作動制限

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC、VGRS の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、およびブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえたり、ハンドルが“ピクッ”と動いたりすることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥にはいる

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■VGRS の作動が停止する場合

次の状況では、VGRS が作動を一時的に停止することがありますが、異常ではありません。

- 停車中や極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
- ハンドルをいっぱいに切った状態で長く力をかけ続けたとき
  この場合、VGRS のモーターやコンピューターが過熱するのを防ぐため、システムの作動を一時的に停止することがあります。このため、低速走行時のハンドル操作量が多くなりますが、走行には支障ありません。その後、モーターやコンピューターの温度が下がれば、数分で正常な状態に復帰します。
  また、モーターやコンピューターの温度が急激に上昇したときは、ハンドルの直進位置がずれる場合があります。ひんぱんにこの状態になる場合、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- − 30℃ 程度の寒冷時でエンジン始動直後にハンドルを操作したとき
  この場合、ハンドル操作量が多くなることがありますが、一時的に VGRS の作動を停止しているだけで異常ではありません。

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■低速時に素早くハンドル操作したときは

一時的にハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、そのまま走行することで、自動的に正常な位置に復帰します。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

VGRS が初期化され、一時的に、ハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、通常のハンドル操作には支障はありません。ハンドルの直進位置は、そのまま走行することで、自動的に復帰します。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを操作し続けると、オーバーヒートを避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

⚠警告

次の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

⚠ 警告

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 417）
異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、VDIM システムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ヒルスタートアシストコントロール

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両のずり下がりを防止し発進を容易に行うことができます。

車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むと“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約 2 秒間です。

●ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

●ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください（車両が後退しない程度)。その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは次の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

●次の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。

・シフトレバーが P 以外の位置のとき
・パーキングブレーキがかかっていないとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき

●マルチインフォメーションディスプレイに VSC システムチェックが表示されているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

●スリップ表示灯が点灯し、VSC OFF 表示灯が点滅しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると“ピッ”とブザーが 1 回鳴ります。（シフトレバーが R の位置以外）

●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に次の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが 2 回鳴ります。（シフトレバーが R の位置以外）

・ブレーキペダルから足を離して、約 2 秒間運転操作を行わなかったとき
・シフトレバーを P の位置にしたとき
・パーキングブレーキをかけたとき
・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
・ブレーキペダルから足を離さずに約 3 分以上経過したとき

●シフトレバーが R の位置での使用は、ヒルスタートアシストコントロールの制御開始・終了を知らせるブザーは鳴らず、スリップ表示灯の点滅・消灯で作動状態をお知らせします。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

知識

■システムの作動条件

次のときシステムが作動します。

- ●車速が約 55 km/h をこえている
- ●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■システムの解除条件

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- ●非常点滅灯を点滅させた
- ●ブレーキペダルを離した
- ●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

衝突を予知して、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与するためのシステムです。運転者のブレーキ操作に連動して作動する方式（ブレーキ連動方式）と、レーダーセンサーにより、前方の障害物との衝突を予知する方式（レーダー方式）の 2 つの方式があります。

■ ブレーキ連動方式*

急ブレーキをかけたときや、車のコントロールが不能と判断したとき、フロントシートベルトを巻き取ります。（→P. 74）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ レーダー方式*

● 注意喚起表示・衝突警告表示

▶ オプティトロンメーター

▶ ファイングラフィックメーター

衝突の可能性があると判断したとき、“ピーピーピー”とブザー音が鳴り、PCS警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに注意喚起表示が出ます。さらに衝突の可能性が高い場合には、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを使って ON/OFF の切りかえができます。

● プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車のコントロールが不能と判断したときも同様に作動します。（→P. 74）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

● プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いと判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を高め、速度低減に貢献します。

● プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いと判断したときに警告灯、警告表示、ブザー音で危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度の低減に貢献します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

● サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰力を制御して、急ブレーキ時に車両前部が沈み込むことの抑制に貢献します。

● ドライバーモニター*

衝突の可能性があると判断し、かつ運転者が正面を向いていない、または運転者の眼が閉じている状態にあると判断した場合に、より早い段階で警報し、早期に危険を知らせます。さらに、状況が改善しない場合には、警報ブレーキが作動します。

● 警報ブレーキ*

運転者が正面を向いていない、または運転者の眼が閉じていて衝突の可能性が高い状態が継続したと判断した場合は、短時間の減速による体感警報により回避操作をうながします。

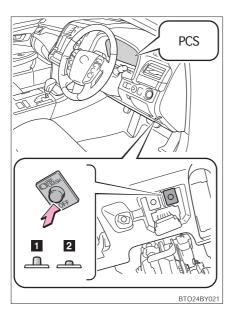
● プリクラッシュシートバック*

衝突の可能性が高いと判断したとき、リヤシートの背もたれを起こし、乗員拘束効果を高めます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

プリクラッシュブレーキの切りかえ

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを押すことにより、プリクラッシュブレーキと注意喚起表示・衝突警告表示の ON/OFF 切りかえができます。

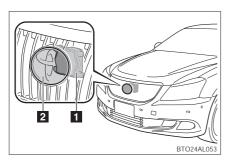
BTO24BY021

1 ON

2 OFF

OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

前側方プリクラッシュセーフティシステム装着車は、前側方プリクラッシュセーフティシステムの衝突警告表示の ON/OFF も切りかわります。(→P. 231)

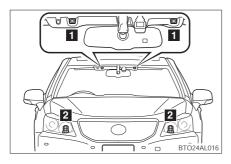
レーダーセンサー*

BTO24AL053

走行中に進路上またはその付近に車やものがあるかどうかを検知し、その位置や車速、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

1 レーダーセンサー

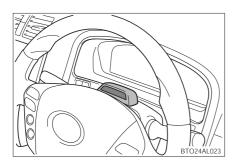
2 グリルカバー

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

カメラセンサー＊

レーダーセンサーに加え、走行中に路上またはその付近の歩行者など立体物を検知します。
ヘッドライト点灯時には近赤外線を照射し、夜間の検出性能の確保に寄与します。

1 カメラセンサー

2 近赤外線投光器

ドライバーモニター用カメラ＊

運転者の顔の向きと眼の開閉状態を検知し、正面を向いていない・眼を閉じていることをシステムが判断します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■レーダーセンサーが検知しない場合（レーダー方式）

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

■カメラセンサーが検知しない場合（カメラセンサー装着車）

●太陽光など強い光がレンズに直接あたっているとき

●悪天候などで視界が悪いとき

●カメラセンサーの温度が非常に高いとき

■システムの作動条件（ブレーキ連動方式）

・フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・自車速度が約 30 km/h 以上
・急ブレーキをかけたときや、車のコントロールが不能と判断したとき

■システムの作動条件（レーダー方式）

●プリクラッシュシートベルトの作動条件 1

・フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・自車速度が約 30 km/h 以上
・急ブレーキをかけたときや、車のコントロールが不能と判断したとき

●プリクラッシュシートベルトの作動条件 2

・フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・自車速度が約 5 km/h 以上
・自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 ～ 40 km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件

・自車速度が約 30 km/h 以上
・自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 ～ 40 km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件

・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・自車速度が約 15 km/h 以上
・自車から見た車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

●サスペンションコントロールの作動条件

・自車速度が約 5 km/h 以上
・自車から見た車や障害物との接近速度が約 30 ～ 40 km/h 以上

●警報ブレーキの作動条件（ドライバーモニター装着車）

・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・正面を向いていないと判断したとき
・眼を閉じていると判断したとき
・自車速度が約 15km/h 以上
・自車から見た車や障害物との接近速度が約 40km/h 以上
・車両直進状態

●プリクラッシュシートバックの作動条件
（プリクラッシュシートバック装着車）

・リヤシートの背もたれを倒しているとき
・スイッチ操作によるリクライニング調整中でないとき
・自車速度が約 5km/h 以上
・自車から見た車や障害物との接近速度が約 30km/h 以上

■システムの作動しない環境（レーダー方式）

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

●きついカーブや起伏がある場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨、霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況

●車が横すべりしている状態

●車両姿勢が極端に変化している状態

■システムの自動解除（レーダー方式）

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の危険があってもシステムは有効に作動しません。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき（レーダー方式）

衝突の可能性がなくても、次の場合、システムが作動することがあります。

●カーブ入り口に障害物があったとき

●カーブで、対向車とすれ違ったとき

●細い鉄橋を走行したとき

●路面に金属物があったとき

●凹凸のある路面を走行したとき

●右折時に対向車とすれ違ったとき

●前を走っている車に急に近付いたとき

●立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき

●上り坂走行中に看板などの上方金属物が前方に見えたとき

●ETC ゲートを高速で通過しようとしたとき

●車両姿勢が極端に変化しているとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は、車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯が点滅したり、警告メッセージが表示されます。
(→P. 362, 367)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容（レーダー方式）
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容（レーダー方式）
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**レーダーセンサーの取り扱い（レーダー方式）**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

●レーダーセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、レーダーセンサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。

●レーダーセンサーを分解しない

●レーダーセンサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

●レーダーセンサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

●レーダーセンサーやグリルを改造したり塗装したりしない

警告

■カメラセンサーの取り扱い（カメラセンサー装着車）

●フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。

●カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

●カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない

●防眩ミラーの位置をカメラのレンズ前に調整しない

●寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラス上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスタースイッチでガラスの曇りを取る

●ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに写り込んだ映像で検出性能が低下する場合があります。

●カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

●カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにシールなどを貼らない

■近赤外線投光器について（カメラセンサー装着車）

●ヘッドライト付近の汚れはカメラセンサーの性能に影響を与えます。汚れている場合は洗車などを行ってください。

●近赤外線投光器の電球は、ハイビームの電球も兼用しており、電球切れを起こすことがあります。ハイビームも使用できなくなるため、電球切れを起こした場合は、新しい電球に交換してください。

●ハイビームの光軸がずれていたり、点灯しないときは検出性能が低下する場合があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●近赤外線投光器は目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時では近赤外線は照射されませんが、安全のため、ハイビームを長時間のぞき込まないようにしてください。

警告

■**ドライバーモニター用カメラの取り扱い（ドライバーモニター装着車）**

ドライバーモニターの効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因になったり、顔向き／眼の開閉判定ができないおそれがあります。

●カメラを改造したり、傷付けたり、持ち上げたり、ひっぱったりしない

●走行中はカメラをさわったりしない

●カメラをぬらしたり、飲料水をかけたりしない

●カメラにものを落としたり、ぶつけたり、衝撃を与えない

●カメラ前面部に傷、汚れ、結露、シール貼りなどがないようにする

●カメラ前面部の前にものを置いたり、覆ったりしない

■**顔向き／眼の開閉判定について（ドライバーモニター装着車）**

次のときは正常に顔向き／眼の開閉判定ができない場合があります。

●カメラと顔のあいだにさえぎるものがあるとき
（カメラの前にものを置く、ステアリング回転中など）

●顔の一部が隠れる状況（サングラス、マスク、メガネなど）

●太陽光などの強い光が、直接顔やカメラにあたる状況

●正しい運転姿勢をしていないとき

●停車中

⚠ 注意

■ **ドライバーモニター用カメラのお手入れ時の注意（ドライバーモニター装着車）**

● 傷を付けないよう、やわらかい布で軽くふいてください。

● 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよくしぼってふき取り、その後、乾いた布でふいてください。

● ベンジン、シンナー、ガラスクリーナー、ワックスなどを使用しないでください。

■ **プリクラッシュブレーキ OFF スイッチについて**

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチのとなりに、同じ形状の AFS OFF スイッチ（→P. 178）があるため、押し間違えないよう注意してください。

前側方プリクラッシュセーフティシステム*

レーダーセンサーにより、斜め前方の車両との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。また、斜め前方の車両と衝突が避けられないと判断したとき、自動的にシートベルトやエアバッグなどに働きかけ、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

■ 衝突警告表示

▶ オプティトロンメーター

BTO24AL054

▶ ファイングラフィックメーター

BTO24AL055

衝突の可能性が高いとき、"ピピピ…"とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを使って ON/OFF の切りかえができます。(→P. 221, 230)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。（→P. 74）

■ プリクラッシュブレーキアシスト

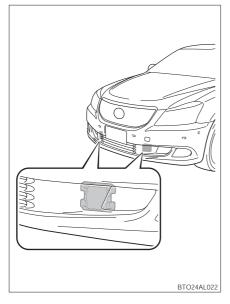
衝突の可能性が高いと判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を高め、速度低減に貢献します。

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰力を制御して、急ブレーキ時に車両前部が沈み込むことの抑制に貢献します。

■ エアバッグコントロール

側面衝突の可能性が非常に高いと判断したとき、SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグ・SRS 後席センターエアバッグの応答性を高めます。

前側方レーダーセンサー

レーダーセンサーにより、走行中に斜め前方に車があるかどうかを検知し、その位置や車速、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

知識

■レーダーセンサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類、人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知できません。

■システムの作動条件

●プリクラッシュシートベルトの作動条件

- フロント席の乗員がシートベルトを着けている
- 自車速度が約 15 km/h 以上
- 自車に近付く相手車の速度が約 15 km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件

- 自車速度が約 30 km/h 以上
- 自車に近付く相手車の速度が約 15 km/h 以上
- ブレーキペダルが踏まれているとき

●サスペンションコントロールの作動条件

- 自車速度が約 30 km/h 以上
- 自車に近付く相手車の速度が約 15 km/h 以上

●エアバッグコントロールの作動条件

- 自車速度が約 15 km/h 以上
- 自車に近付く相手車の速度が約 25 km/h 以上
- 側面衝突の可能性が非常に高いと判断したとき

■システムの作動しない環境

前側方プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

- ●見通しの悪い交差点やＴ字路
- ●自車のうしろ側面への衝突
- ●きついカーブや起伏がある場所
- ●自車の斜め前方に車の急な割り込みがある状況
- ●雨、霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- ●車が横すべりしている状態
- ●車両姿勢が極端に変化している状態
- ●衝突面積の小さい斜めからの衝突

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、レーダーセンサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の危険があってもシステムは有効に作動しません。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、次の場合、システムが作動することがあります。

- ●急カーブやＳ字カーブで、対向車とすれ違ったとき
- ●狭い道などで、近い距離で対向車とすれ違ったとき
- ●路上駐車している車の横をすり抜けるときに、対向車とすれ違ったとき
- ●右折車とすれ違ったとき
- ●駐車場などから道路へ合流する車とすれ違ったとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は、車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯が点滅したり、警告メッセージが表示されます。
(→P. 362、367)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
前側方プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキアシストにより運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

前側方プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキアシストにより衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容
前側方プリクラッシュセーフティシステムは、斜め前の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
前側方プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる斜め前の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

⚠ 警告

■ロアグリルの取り扱い

前側方プリクラッシュセーフティシステムのレーダーセンサーはロアグリルの内側にあります (→P. 232)。システムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

- ●ロアグリルは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、ロアグリルを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- ●レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
  レーダーセンサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。
- ●ロアグリルを改造したり別のものに交換しない
- ●ロアグリルの塗装修理は絶対行わないでください。誤作動、不作動の原因になります。
- ●ロアグリルが傷付いた場合、塗装修理は行わず、ロアグリルを交換してください。交換については、トヨタ販売店に相談してください。
- ●レーダーセンサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。
- ●ロアグリル周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

後方プリクラッシュセーフティシステム*

後方車両の接近により追突を予測して、後方車両への注意喚起とむち打ち傷害を軽減するためのシステムです。

■ 後方車両への警報（非常点滅灯）

追突の可能性があると判断したときに非常点滅灯を作動させ、後方車両に注意をうながします。

■ 傷害の軽減

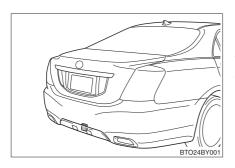
● プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト*

追突の可能性が非常に高いと判断したときに、ヘッドレスト内のセンサーにより頭部位置を検出し、追突前にプリクラッシュインテリジェントヘッドレストを適切な位置まで移動させ、追突された際のむち打ち傷害を軽減します。

● プリクラッシュシートバック*

追突の可能性が非常に高いと判断したとき、リヤシートの背もたれを起こし、乗員拘束効果を高め、追突された際の傷害の軽減に寄与します。

後方レーダーセンサー

BTO24BY001

レーダーセンサーにより、後方から接近する車を検知し、その位置や速度、進路から追突する可能性を事前に判断します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■システムの作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードで、自車線内の後方車両が追突する可能性があるときに次の条件で作動します。

●後方車両への警報（非常点滅灯）の作動条件

・ 自車から見た後方車の接近速度が約 30 km/h 以上
・ 停止時または前進時でブレーキペダルが踏まれているとき
・ 方向指示灯や非常点滅灯が OFF

●プリクラッシュインテリジェントヘッドレストの作動条件

・ 自車から見た後方車の接近速度が約 15 km/h 以上
・ 停止または前進しているとき

●プリクラッシュシートバックの作動条件
（プリクラッシュシートバック装着車）

・ リヤシートの背もたれを倒しているとき
・ スイッチ操作によるリクライニング調整中でないとき
・ 自車から見た後方車の接近速度が約 15km/h 以上
・ 停止または前進しているとき

■センサーが検知しにくい場合

後方プリクラッシュセーフティシステムはすべての追突を検知できるシステムではありません。次のときは作動しない場合がありますので周辺への注意を怠らないでください。

●車両姿勢が極端に変化しているとき

●自転車、オートバイなどは検知しないことがあります。

●雨滴、氷雪が専用カバー (→P. 240) に付着したとき

●きついカーブや起伏がある場所

●斜めからの追突や衝突面積の小さい追突のとき

■プリクラッシュインテリジェントヘッドレストについて

帽子をかぶっていたり、髪をうしろで束ねたりしているとき、プリクラッシュインテリジェントヘッドレストが適切な位置に停止できないことがあります。

■追突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

- 右左折などで停車したときなどに、自車の真うしろを後続車がすり抜けたとき
- 道路脇に停車したときなどに、車が真横をすり抜けたとき
- 走行時、後方車が近距離から追いこしたとき
- 走行時または停車時、後方車が近距離まで急接近したとき
- 車両姿勢が極端に変化しているとき

■システムに異常があるときは

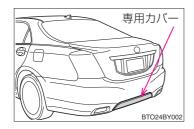
警告灯が点滅したり、警告メッセージが表示されます。
(→P. 362, 367)

⚠ 警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

●レーダーセンサーを分解しない

●レーダーセンサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

■**専用カバーの取り扱い**

後方プリクラッシュセーフティシステム装着車の専用カバーは、レーダーセンサーの電波透過性に影響します。システムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

●専用カバーの塗装修理は絶対行わないでください。誤作動、不作動の原因になります。

●専用カバーが傷付いた場合、塗装修理は行わず、専用カバーを交換してください。交換については、トヨタ販売店に相談してください。

●専用カバーは常にきれいにしておく
雨滴、氷雪などによって性能が低下することがあります。

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。

●専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

●専用カバーを改造したり別のものに交換しない

■**プリクラッシュインテリジェントヘッドレストの取り扱い**

トヨタ純正品以外のヘッドレストカバーは付けないでください。

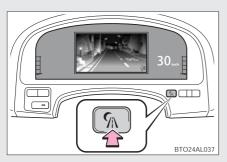
ナイトビュー（歩行者検知機能付）＊

ナイトビューは、夜間の走行を補助するシステムです。
夜間に肉眼では見えにくい前方の歩行者、障害物、道路状況を、投光器から照射した近赤外線の反射光をカメラで撮影・映像化して、メーター中央部に表示します。

■ 歩行者検知機能

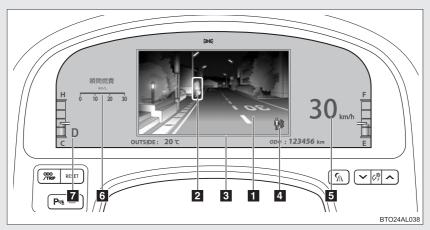
映像から歩行者を検知すると、その位置を黄色の枠（歩行者検知枠）で表示し、同時にナイトビュー画面の輪郭を黄色の枠（注意喚起枠）で点滅させることにより運転者に注意をうながす機能です。

■ ナイトビュー画面の表示のしかた

ナイトビュースイッチを押すと、メーターの中央部にナイトビュー画面が表示されます。

ナイトビュー画面を表示させる

もとにもどすには再度スイッチを押します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ナイトビュー画面表示について

1 ナイトビュー画面

2 歩行者検知枠

・ 歩行者を検知すると注意喚起枠とともに表示されます。
・ 検知された人数分の歩行者検知枠が表示されます
・ 歩行者が検知されなくなると注意喚起枠とともに表示がなくなります。

3 注意喚起枠

・ 歩行者を検知すると歩行者検知枠とともに表示され、3回点滅し、その後点灯にかわります。
・ 歩行者が検知されなくなると歩行者検知枠とともに表示がなくなります。

4 歩行者検知インジケーター

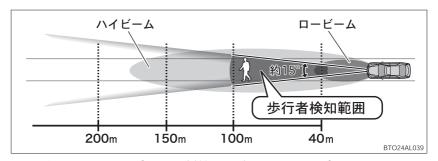
歩行者検知機能の作動状況を表示します。

歩行者検知インジケーター	歩行者検知機能の状況
	作動中
	非作動中

5 スピードメーター（→P. 162）
ナイトビュー画面が表示されると横にスライドして表示されます。

6 マルチインフォメーションディスプレイ（→P. 171）
ナイトビュー画面が表示されると横にスライドして表示されます。

7 シフトポジション表示灯（→P. 166）
ナイトビュー画面が表示されると横にスライドして表示されます。

ナイトビューが映し出せる範囲

ヘッドライトのロービーム照射範囲の先から、ハイビームまでです。

■ 歩行者検知の範囲

車両前方約 15°以内、距離は約 40 ～ 100m のあいだです。

● 車両の速度に応じて検知範囲はかわります。

知識

■システムの作動条件

ライトセンサー (→P. 179）が周囲の明るさの状態から夜間と判断しているときに、ヘッドライトを点灯した状態でナイトビュースイッチを押すとシステムが作動します。

●作動条件の詳細

作動条件		近赤外線投光器	歩行者検知機能
	車速条件		
・“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モード ・周囲が暗い状態 ・ヘッドライトが点灯状態 ・ナイトビュースイッチを ON	車速が約 15km/h 未満	消灯※1	非作動
	車速が約 15km/h 以上約 60km/h 未満	点灯	作動※2
	車速が約 60km/h 以上	点灯	非作動

※ 1 近赤外線が照射されなくなるため、ナイトビュー画面に映像は表示されますが、映像化できる範囲や距離に制限があります。

※ 2 ワイパーが LO（低速）または HI（高速）で作動しているときは歩行者検知機能は作動しません。
また、周囲の明るさが一定以上の明るさの場合も、歩行者検知機能は作動しません。

■ナイトビューが作動可能なとき以外でナイトビュースイッチを押したときは

メーターにアドバイス情報が表示されます。表示されたアドバイスに従ってください。

■ナイトビュー作動中にシフトレバーを R にしたときは

ナイトビュー画面は黒色となり映像は表示されません。

警告

■ナイトビューをお使いになる前に

ナイトビューを過信しないでください。
ナイトビューは、夜間走行中に見えにくい前方の道路状況、歩行者認知を補助するものです。機能には限界がありますので、使用する場合には過信せず、下記に十分気を付けて安全運転を心がけてください。

■ナイトビュー画面について

- 通常の目視のかわりに、ナイトビュー画面のみを見て運転しないでください。
- 運転中にナイトビュー画面を見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。ナイトビューはあくまで運転の補助として使用してください。
- ナイトビューは夜間のカーブの少ない道路を走行するときに運転者の視覚を補助するためのものです。坂道やカーブの多い場所、市街地では使用しないでください。道路形状（カーブの大きさ、勾配など）により表示できない場所があります。
- メーター明るさ調整スイッチ（→P. 164）と連動してナイトビュー画面の明るさが調整されます。暗い設定にしているときは、ナイトビュー画面が見づらい場合があるため、明るくして使用してください。

警告

●ナイトビューはすべてのものを明るく映像化できるわけではありません。全体が暗く映ったり、一部が見えにくくなることがあります。ナイトビューを過信せず、ナイトビューを装着していない車と同様に、必ず周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。
また、映像として映りにくいもの・映りにくい状況があります。

＜映像に映りにくいもの＞

・特定の素材の衣類（本革ジャケットなど）
・看板の文字
・道路案内板の情報など

＜映像が映りにくい状況＞

・雨、霧、降雪、吹雪などの悪天候時
・雨上がりの水たまりなど路面反射が大きいとき
・カメラ前面のフロントウインドウガラスが曇っているとき、汚れているとき、氷結しているとき
・ヘッドライト付近に氷、雪、泥などが付着しているとき
・著しくバッテリーの電圧が低下しているとき
・対向する強い光源が前方にあるとき

■注意喚起枠について

注意喚起枠は、ナイトビューの歩行者検知機能が歩行者を検知したときに表示され、運転者に注意をうながすものです。

●注意喚起枠が出た場合は、前方に歩行者がいるおそれがあるため、周囲の安全を十分に確認して運転してください。

●注意喚起枠が出ても、ナイトビュー画面を見続けないでください。前方の危険を見落とすおそれがあります。

●天候や道路状況、歩行者の状況により注意喚起するタイミングが遅くなり、歩行者との距離が近くなる場合があります。注意喚起枠が出た場合は、まず直接周囲の安全を十分に確認して運転してください。

●わき見運転の状態では役に立ちません。

警告

■**歩行者検知機能について**

歩行者検知機能には限界があります。機能作動状態でも、下記のような歩行者を検知できないおそれのある状況では作動しないことがあります。

●映像が映りにくい状況

・雨、霧、降雪、吹雪などの悪天候時
・ワイパー作動中および間欠作動時（ワイパー LO 作動、HI 作動中は歩行者検知機能を停止）
・カメラ前面のフロントウインドウが曇っているとき、汚れているとき、氷結しているとき
・ヘッドライト付近に氷、雪、泥などが付着しているとき
・著しくバッテリーの電圧が低下しているとき

など

●カーブや坂道、勾配のある道では、前方に歩行者がいても検知できない場合があります。

●街路灯、照明、対向車の強いライトなど、強い光のある状態では検知しない場合があります。

●自車の前方に歩行者が飛び出したときは、正しく検知できない場合があります。

●歩行者検知範囲内でも、ガードレール、街路樹、柱、停車車両などで歩行者の体の一部が隠れている場合は検知できません。

⚠警告

●歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差、形状、大きさで歩行者を判断しているため、機能には限界があります。
また次の場合は、正しく検知できない場合があります。

＜体型・姿勢の影響＞

・寝ている人、しゃがんでいる人
・身長 1m 以下、または 2m 以上の人
・つれ立って歩く複数の人（ナイトビュー画面で重なって見える場合）
・横向きに立っている人
・手をあげている人

＜衣服の影響＞

・上下で反射率が大きく異なる服を着た人
・近赤外線カメラで暗く映るような近赤外線の反射率の低い服（本皮ジャケットなど）を着た人
・コートや着物などで手足のシルエットのような特徴が出にくい服装の人
・反射材のタスキなどを身に付けた人

＜持ち物の影響＞

・傘をさしている人
・大きな荷物、かばんなどを持っている人

＜その他＞

・自転車に乗った人、自転車を押している人
・ベビーカーを押している人
・車いすの人、車いすを押している人

など

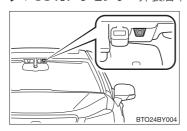
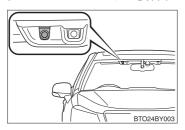
●動物は検知しません。

●歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差、形状、大きさで歩行者を判断しているため、人の形に似ているものがあった場合、誤認識することがあります。（看板、植木、尾灯など）

注意

■近赤外線カメラについて

ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

▶ PCS カメラセンサー非装着車

▶ PCS カメラセンサー装着車

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
  雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、または分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- 防眩ミラーの位置をカメラのレンズ前に調整しない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスタースイッチでガラスの曇りを取る
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにシールなどを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
  フロントウインドウガラスに写り込んだ映像がナイトビュー画面に表示され、歩行者を正しく検知できない場合があります。

注意

■ナイトビュー作動中で近赤外線投光器が消灯しているときは

映像は表示されますが、映像化できる範囲や距離に制限があります。

■近赤外線投光器について

ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

- ヘッドライト付近の汚れはナイトビューの性能に影響を与えます。汚れている場合は洗車などを行ってください。
- 近赤外線投光器の電球は、ハイビームの電球も兼用しており、電球切れを起こすことがあります。ハイビームも使用できなくなるため、電球切れを起こした場合は、新しい電球に交換してください。
- ハイビームの光軸がずれていたり、点灯しないときは検出性能が低下する場合があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 近赤外線投光器は目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時では近赤外線は照射されませんが、安全のため、ハイビームを長時間のぞき込まないようにしてください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - パッケージトレイ
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - フタのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
（タイヤについて：→P. 308）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

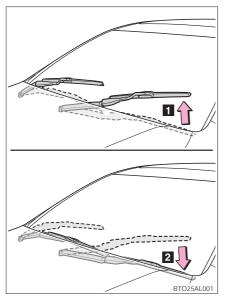
■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ワイパー停止位置の切りかえ（寒冷地仕様車）

積雪や凍結のおそれがある場合は、あらかじめフード下に格納されているワイパーを積雪時の停止位置に切りかえておきます。

ワイパーアームのフック部をしっかり持ってワイパーの停止位置の切りかえを行ってください。

1 積雪時の停止位置にする：
ガラス面にそって引き上げます。

2 通常の停止位置にもどす：
フック上部を手で押します。

ワイパーを立てるときは、積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

・安全に作業できる場所で行う
・後 2 輪に取り付ける
・タイヤチェーンに付属の取扱書に従う
・取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急ハンドル、急ブレーキを避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■**駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止め※をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

■**冬用タイヤやタイヤチェーンを取り付けるときは**

電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

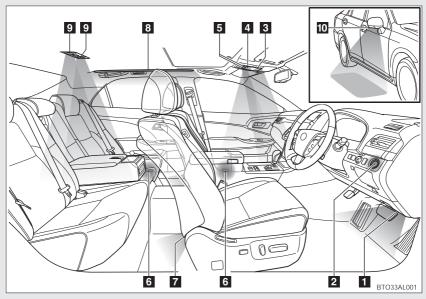
●タイヤチェーンを取り付けるとホイールに傷が付くことがあります。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

3 室内装備の使い方

室内灯一覧

夜間の乗降を補助するために、イルミネーテッドエントリーシステムが付いています。電子キー携帯の有無、ドアの解錠・施錠、ドアの開閉、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態、シフトレバーの位置などによって各部の照明が点灯・消灯・減光します。

1 フロント足元照明

2 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明

3 ルームライト（→P. 262）

4 フロントパーソナルライト（→P. 262）

5 シフト照明（“エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード）

6 ドアカーテシ照明

7 リヤ足元照明

8 天井サイドイルミネーション*（→P. 264）

9 読書灯（→P. 263）

10 ドアミラー照明

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でルームライトのドア連動が ON のときに、各部照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420)

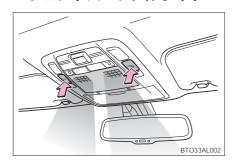
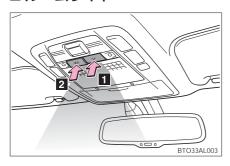
フロントパーソナルライト、ルームライト

■ フロントパーソナルライト

BTO33AL002

点灯／消灯

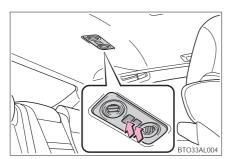
■ ルームライト

BTO33AL003

1 点灯／消灯
2 ドア連動 ON/OFF

知識

■ルームライトについて

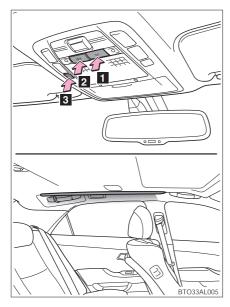
スイッチがドア連動 ON のとき、イルミネーテッドエントリーシステムによりルームライトが自動的に点灯、消灯します。

読書灯

点灯／消灯

知識

■読書灯について

ルームライトのドア連動が ON のとき、イルミネーテッドエントリーシステムにより読書灯が自動的に点灯、消灯します。

天井サイドイルミネーション*

1 ルームライト、天井サイドイルミネーション
点灯／消灯

2 ドア連動 ON/OFF

3 天井サイドイルミネーション
点灯（高輝度）／点灯（低輝度）／消灯

ルームライトが点灯しているときに輝度の調整ができます。

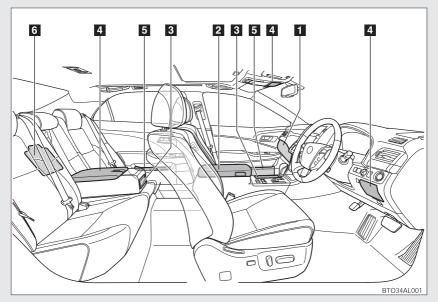
知識

■天井サイドイルミネーションについて

ルームライト、天井サイドイルミネーションが消灯、ドア連動スイッチが ON のときはイルミネーテッドエントリーシステムにより、天井サイドイルミネーションの明るさが 2 段階に変化（高輝度・低輝度）、または消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

収納装備一覧

▶ 5 席車両

1 グローブボックス

2 コンソールボックス

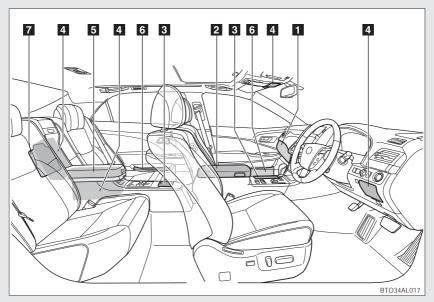
3 カップホルダー

4 小物入れ

5 ドアポケット

6 クールボックス*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ 4 席車両

1 グローブボックス

2 コンソールボックス

3 カップホルダー

4 小物入れ

5 小物入れ（後席 9 型ワイドディスプレイ非装着車）

6 ドアポケット

7 クールボックス

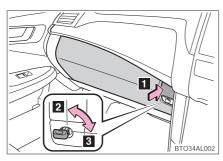
警告

■**収納装備に放置してはいけないもの**

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

● 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

● 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

1 開ける（ボタンを押す）

2 メカニカルキーで解錠

3 メカニカルキーで施錠

知識

■**グローブボックスライトについて**

車幅灯が点灯しているときにグローブボックスを開くとライトが点灯します。

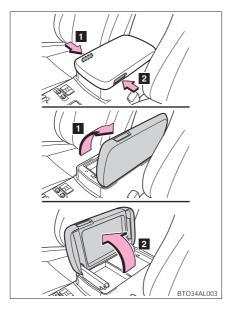
■**トランクオープナーメインスイッチ**

グローブボックス内にトランクオープナーメインスイッチ（→P. 51）があります。

警告

■走行中の警告

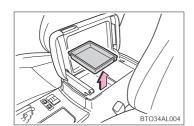
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

ボタンを押してフタを持ち上げる

1 運転席側から開ける

2 助手席側から開ける

知識

■コンソールボックス内のトレイについて

中のトレイをはずすことができます。

警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

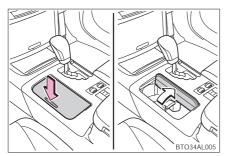
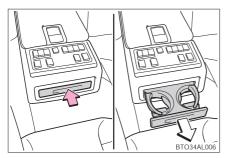
カップホルダー

▶ フロント

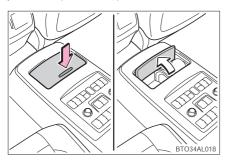
BTO34AL005

フタを押す

▶ リヤ（5 席車両）

BTO34AL006

カップホルダーを押す

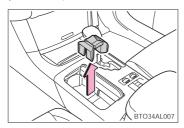
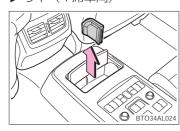
▶ リヤ（4 席車両）

BTO34AL018

フタを押す

知識

■カップホルダーの仕切りについて

仕切りをはずし、小物入れとして使用できます。

▶ フロント

▶ リヤ（4 席車両）

警告

■収納してはいけないもの

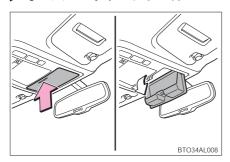
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

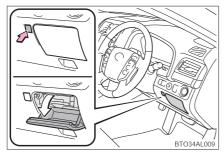
フロント、リヤ（4 席車両）は、フタを必ず閉じてください。
リヤ（5 席車両）は、カップホルダーを必ず収納してください。
急ブレーキ時などに、開いたフタやカップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソール

BTO34AL008

押して開ける

▶ 運転席アンダーボックス

BTO34AL009

ボタンを押して開ける

▶ リヤアームレスト（5 席車両）

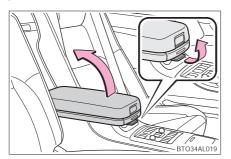
BTO34AL010

アームレストを倒してレバーを引いて開ける

▶ リヤコンソールボックス上部
(4 席車両の後席 9 型ワイドディスプレイ非装着車)

ボタンを押して開ける

後席 9 型ワイドディスプレイ装着車は、リモコンが収納されています。(詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書/後席 9 型ワイドディスプレイ/各部の操作」をご覧ください)

▶ リヤコンソールボックス下部(4 席車両)

レバーを引いて開ける

▶ リヤアッパーコンソールボックス(4 席車両)

ボタンを押して開ける

奥にクールボックスがあります。(→P. 276)

知識

■リヤコンソールボックスを開けるときは(4 席車両)

リヤコンソールボックスのボタンやレバーとテーブル(→P. 291)を間違えないよう注意してください。

警告

■**走行中の警告**

小物入れを開けたままにしないでください。急ブレーキ時などに、開いた小物入れやフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**収納してはいけないもの（オーバーヘッドコンソール）**

200ｇ 以上のものを入れないでください。200ｇ 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

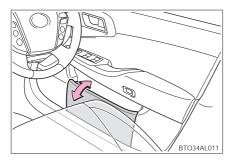
注意

■**リヤコンソールボックス下部に収納するときは（4 席車両）**

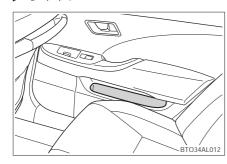
●アクセサリーソケット・アクセサリーコンセントの上部にものを置かないでください。フタを閉めたときに挟まり、置いたものやフタが損傷するおそれがあります。

ドアポケット

▶ フロントドア

BTO34AL011

フロントドアのドアポケットは開閉することができます。

▶ リヤドア

BTO34AL012

⚠ 警告

■走行中の警告

フロントドアポケットは必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたドアポケットが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

クールボックス（リヤエアコン装着車）

手順 1

▶ 5 席車両

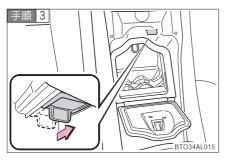
アームレストを手前に倒す

▶ 4 席車両

リヤアッパーコンソールボックスを開ける（→P. 273）

手順 2

レバーを引きフタを開ける

手順 3

冷風開閉口を開ける

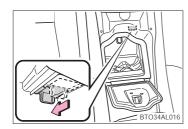
知識

■作動条件

リヤエアコンが作動しているとき

■クールボックスを使用するときは

クールボックスを確実に保冷庫として作動させるには、リヤエアコンを LO A/C または HI A/C で使用してください。AUTO の位置で使用している場合には、自動調整により、リヤエアコンが停止し、保冷機能が損なわれるおそれがあります。リヤエアコンについては別冊「ナビゲーションシステム取扱書／エアコン／リヤエアコン＆エアピュリファイヤー」をご覧ください。

■小物入れとして使うには

保冷機能を停止するために、冷風開閉口を閉じます。

■クールボックスに入れるものとして適さないもの

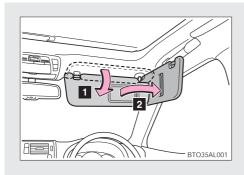
●フタがされていない容器に入ったもの

●割れ物、腐るもの、匂いが強いもの

⚠警告

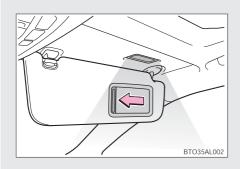
■走行中の警告

クールボックスを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

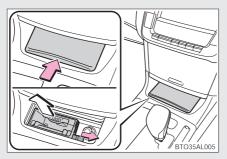
サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

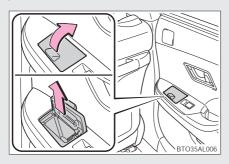
BTO35AL002

カバーを開けるとライトが点灯します。

灰皿

▶ フロント

フタを押して開ける

取りはずすときは灰皿の横にあるノブを右にスライドさせ取りはずします。

フタを閉じるにはフタをもう一度前方に押すと閉じることができます。

▶ リヤ

フタを開ける

取りはずすときは灰皿本体を持って取りはずします。

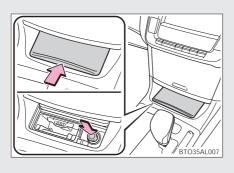
警告

■使用後について

フタを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

■出火を防ぐために

- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター

フタを押して開けて、シガレットライターを押し込む

もとの位置にもどったら使用できます。

フタを閉じるにはフタをもう一度前方に押すと閉じることができます。

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

警告

■やけどを防ぐために

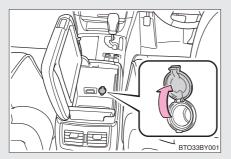
- シガレットライターの金属部分にふれないでください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- トヨタ純正品以外の電気製品の電源ソケットを挿し込まないでください。
ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

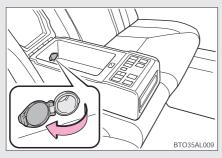
■使用後について

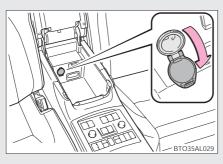
フタを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

アクセサリーソケット

12V 10A 以下（最大消費電力 120W）の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

▶ フロント

フタを手前に引いて開ける

▶ リヤ（5 席車両）

フタを手前に引いて開ける

▶ リヤ（4 席車両）

フタを手前に引いて開ける

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

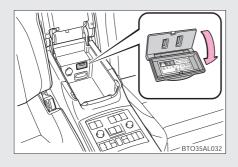
12V でフロントとリヤの合計が 10A（最大消費電力 120W）をこえないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

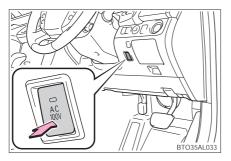
エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント（4 席車両）

AC100V で消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

BTO35AL032

フタを手前に引いて開ける

メインスイッチ

BTO35AL033

メインスイッチを ON にする

ON にすると作動表示灯が点灯します。

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■アクセサリーコンセントについて

●AC100V で消費電力 100W 以下の電気製品を使用してください。
消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が働き、使用できなくなります。この場合、コンセントをはずして消費電力が 100W 以下になれば使用することができます。

●消費電力が 100W 以下であっても次のような機器は正常に作動しない場合があります。

・起動時の消費電力が大きい機器（ブラウン管式テレビ、コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電動工具など）
・電源周波数（50/60Hz）の切りかえのある機器（時計、オーディオなど）
・精密なデータを計測する機器（医療機器、計量器など）
・その他（マイコン制御式電気毛布、タッチセンサー付ライトなど）

●使用する電気製品によっては、ラジオに雑音が入ったり、デジタルテレビの画像が静止することがあります。

●アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正確な電圧を測定できません。

注意

■ショートや故障を防ぐために

コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

AC100V で消費電力 100W をこえないようにしてください。

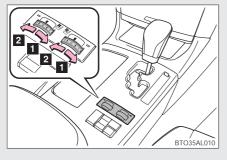
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

シートヒーター＆ベンチレーター＊

シートを暖めたり、シートから風を出して通気をよくできます。

■ シートヒーター＆ベンチレーター（フロント席）

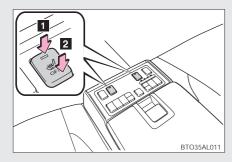
BTO35AL010

1 シートを暖める

ノブをまわすとインジケーターが点灯し、大きい数字に合わせるほど温度が高くなります。

2 シートから風を出す（ベンチレーター装着席）

ノブをまわすとインジケーターが点灯し、大きい数字に合わせるほど風量が大きくなります。

■ シートヒーター（5 席車両のリヤ席）

BTO35AL011

1 シートを暖める

インジケーターが点灯します。
シートが暖まると自動的に「弱」になります。

2 OFF

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**やけどを防ぐために**

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。

・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

●シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

注意

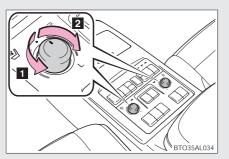
■**シートヒーター&ベンチレーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときは使用しないでください。

コンフォータブル・エアシート（4 席車両）

リヤシートを暖めたり、冷やすことができます。

左右にまわして温度を設定する

1 冷房

2 暖房

ツマミをまわすとインジケーターが点灯します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■フィルターについて

コンフォータブル・エアシートにはフィルターが入っています。交換の際はトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■やけどや冷やしすぎを防ぐために

● 低温やけどや冷やしすぎのおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。

・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

● シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
コンフォータブル･エアシートの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

⚠ 注意

■コンフォータブル・エアシートの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときは使用しないでください。

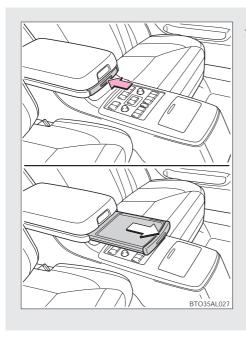
アームレスト（5 席車両）

倒して使用します。

注意

■**アームレストの破損を防ぐために**

過度の負荷をかけないでください。

テーブル（4 席車両）

テーブルを押す

警告

■使わないときは

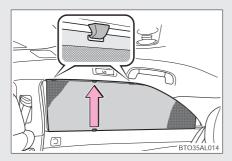
テーブルを必ず収納してください。
急ブレーキ時などに、テーブルに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

注意

■テーブルの破損を防ぐために

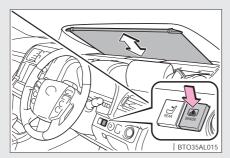
10kg 以上のものをのせたり、過度の負荷をかけないでください。

リヤサンシェード*

■ リヤドアサンシェード

ツマミを持って引き出し、フックにかける

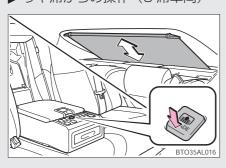
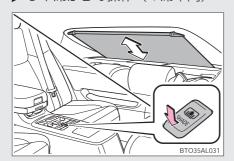
もどすときはフックからはずし、収納します。

■ 電動リヤサンシェード

▶ 運転席からの操作

上昇／下降

▶ リヤ席からの操作（5 席車両）

上昇／下降

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ リヤ席からの操作（4 席車両）

上昇／下降

知識

■電動リヤサンシェードの作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしたあとでも、約 60 秒間電動リヤサンシェードを操作できます。

■リバース連動機能

電動リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするために電動リヤサンシェードが下降します。
ただし下記のいずれかを行うと、電動リヤサンシェードは再度上昇します。

●スイッチを押す

●シフトレバーを P に入れる

●シフトレバーを P と R 以外にし、15 km/h 以上で走行する

■リバース連動機能が働かない場合

状況によってはリバース連動機能が働かない場合があります。その場合、スイッチを押して、電動リヤサンシェードを上昇・下降させてください。

⚠警告

■電動リヤサンシェード作動中は

電動リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

⚠注意

■バッテリーあがりを防ぐため

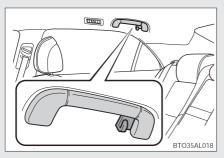
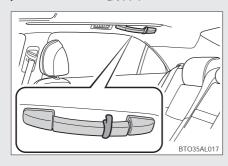
エンジンがかかっていない状態では電動リヤサンシェードをくり返し操作しないでください。

■正常に機能させるため

次のことをお守りください。

- モーターや他の部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉のさまたげになる部分にものを置かないでください。
- リヤサンシェードにものを貼らないでください。
- リヤサンシェードが格納されている溝をきれいに保ってください。
- 長時間、電動リヤサンシェードの操作を続けないでください。

アシストグリップ&コートフック

▶ ムーンルーフ非装着車

▶ ムーンルーフ装着車

⚠ 警告

■コートフックへかけてはいけないもの

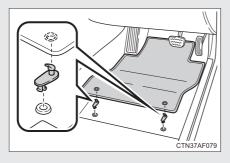
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■破損を防ぐために

アシストグリップやコートフックに過度の負荷をかけないでください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

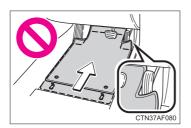
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■**運転席にフロアマットを敷くときは**

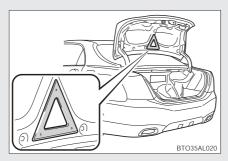
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

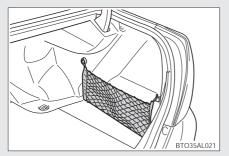
⚠ 警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

●エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

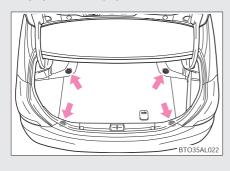
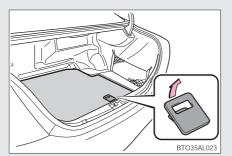
トランク内装備

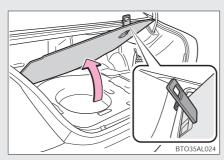
■ 三角停止警告板

緊急時や夜間時にトランクを開けておくだけで後方の車両に注意をうながすことができます。

■ ラゲージネット

ネットを使用してトランク内を仕切ることができます。

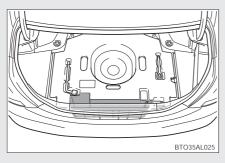
■ ラゲージフック

■ ラゲージマット

BTO35AL023

レバーを引き上げ、ラゲージマットを持ち上げます。

BTO35AL024

レバーをトランクの縁へかけることができます。

■ ラゲージアンダートレイ

BTO35AL025

三角表示板などを収納することができます。

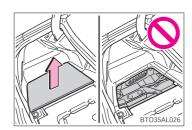
知識

■三角停止警告板について

高速道路や自動車専用道路で故障して停車した場合は停止表示板または停止表示灯を使用してください。（法的にも義務付けられています）

■ラゲージアンダートレイについて

三角表示板を収納する場合、三角表示板のケースの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

■トランク内左側のスペースについて

このスペースは高温になります。収納スペースとして使用しないでください。

注意

■トランクを閉めるときは

ラゲージマットのレバーをトランクの縁にかけたままにしないでください。
ラゲージマットが破損するおそれがあります。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください）にワックスをかける

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■高圧洗車機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

■標準タイヤのホイール

- ●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- ●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ドアミラーの親水コーティングについて

親水膜の効果を持続させるため、次のことに注意してください。

- ●シリコーンやコンパウンドの入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す
- ●晴天時に太陽光を 1・2 日間あてる

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管およびデュアルエキゾーストテールパイプ（ディフューザー付）について

排気管およびデュアルエキゾーストテールパイプは排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などにふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■前側方プリクラッシュセーフティシステム*について

フロントバンパーの塗装に傷が付いたときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■後方プリクラッシュセーフティシステム*について

リヤバンパーの塗装に傷が付いたときは、トヨタ販売店にご相談ください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

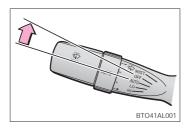
●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO になっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ ハンドルの本杢部の手入れ

- 毛先のやわらかいブラシなどを使用して、うすめた中性洗剤で汚れを落とす
- 固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る
- 深い傷が付いた場合は、家具表面仕上げ用のクルミオイルを少量付け、乾いたやわらかい布でふくと目立ちにくくなります。

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは極力、乾いた状態を保つことをおすすめします。
洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 73)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤーをぬらさないでください。(→P. 109)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

注意

■革の傷みを避けるために

革の部分の損傷・消耗を避けるために、次のことをお守りください。

- ●革に付いたほこりや砂はすぐに取り除く
- ●直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する
- ●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはり付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラス・リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- ●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず､熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- ●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■シート肩口スピーカー装着車について

スピーカーグリル部にジュースなどをこぼしたり、シートクリーナーや消臭剤などを吹き付けたりしないでください。オーディオの音質の劣化の原因になるおそれがあります。

■ヘッドレストスピーカー装着車について

スピーカー部にジュースなどをこぼしたり、シートクリーナーや消臭剤などを吹き付けたりしないでください。オーディオの音質の劣化の原因になるおそれがあります。

■ハンドルやその他内装の本杢部について

指輪や腕時計などで傷を付けないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を FR 車は 10,000km ごとに、4WD 車は 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

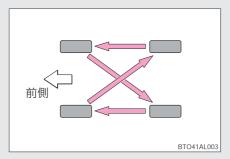
タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

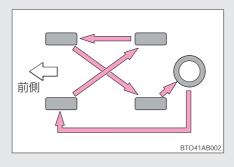
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

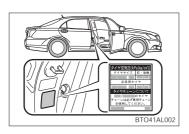
▶ スペアタイヤが応急用タイヤの場合

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

▶ スペアタイヤが標準タイヤの場合

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

標準タイヤ：230 kPa (2.3 kg/cm^2) ※

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2) ※

※：タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■日常点検について

●日常点検として必ずタイヤを点検してください。

●タイヤの点検は法律で義務付けられています。
タイヤは次の点について点検してください。

・タイヤの空気圧
・タイヤの亀裂・損傷の有無
・タイヤの溝の深さ
・タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

■指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP. 417で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。
指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

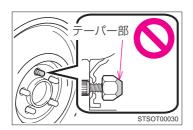
※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象

■異常があるタイヤの使用禁止

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因になることがあります。

警告

■**タイヤ交換時の注意**

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、事故につながり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■**タイヤのサイズ、種類について**

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤ空気圧の点検は必ず行ってください。

・４輪の空気圧の差が著しいとき
・空気圧が指定値からはずれているとき

●タイヤの摩耗を４輪とも均等にし、寿命を延ばすためにタイヤのローテーションを行ってください（→P. 308）

●ディスクホイールを交換するときも指定以外のディスクホイールを装着しないでください。

警告

●指定以外のタイヤおよび 4 輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・AFS
・クルーズコントロール*
・レーダクルーズコントロール*
・LKA *
・電子制御エアサスペンション
・ABS &ブレーキアシスト
・VSC
・TRC
・EPS
・VGRS *
・VDIM
・PCS
・前側方 PCS *
・後方 PCS *
・ナイトビュー*
・GPS ボイスナビゲーション
・NAVI・AI-SHIFT
・バックガイドモニター*
・サイドモニター*
・クリアランスソナー*
・インテリジェントパーキングアシスト*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

・4WD システム*

■**冬用タイヤについて**

冬用タイヤ装着時も、必ず標準タイヤと同じサイズで同一種類のタイヤを装着し、指定空気圧で走行してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**摩耗限度について**

タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、雨の日に制動距離が長くなったり、ハイドロプレーニング現象※により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面のあいだに水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象

注意

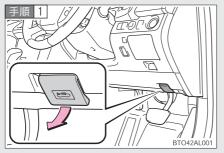
■**タイヤ空気圧が低いとき**

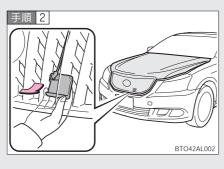
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてフックをはずし、ボンネットを開ける

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■**ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために**

● ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

● ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

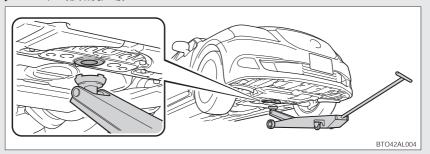
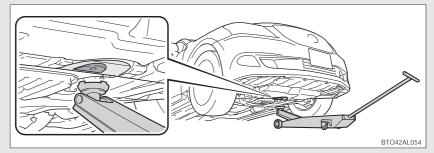
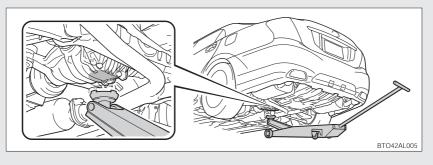
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

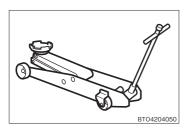
▶ FR 車（後輪駆動）

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

■ リヤ側

⚠ 警告

■車両を持ち上げるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

BT04204050

- 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。
- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。
- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に停車し、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しく取り付けてください。
  ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

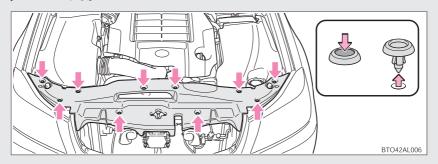
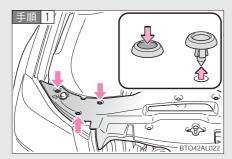
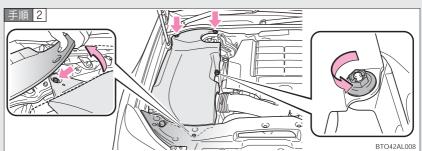
警告

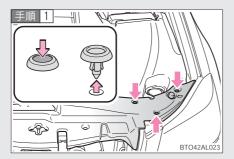
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、必ずエンジンを停止してください。

エンジンルームカバー

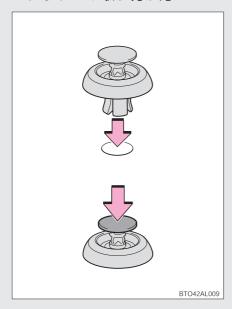
ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

▶ フロント側

▶ 運転席側

フロント側エンジンルームカバーのクリップを取りはずす

クリップとナットを取りはずし、カバーを取りはずす

▶ 助手席側

フロント側エンジンルームカバーのクリップを取りはずす

クリップとナットを取りはずし、カバーを取りはずす

■ クリップの取り付け方

警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■エンジンルームカバーを取りはずすときは

クリップをエンジンルームの中に落とさないよう注意してください。

■エンジンルームカバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

電球（バルブ）の交換

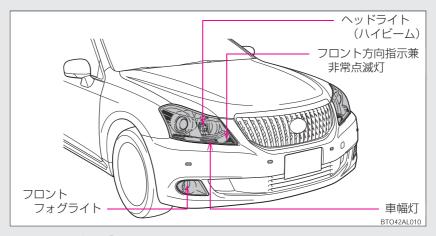
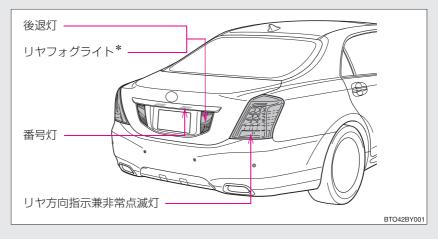
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確かめてください。（→P. 418）

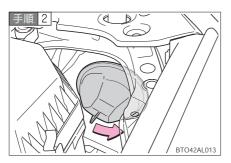
■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

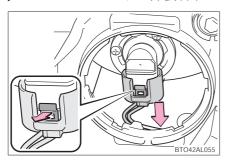
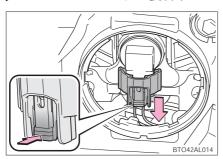
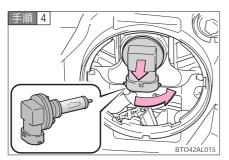
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドライト（ハイビーム）

手順 1 運転席側（助手席側）エンジンルームカバーを取りはずす
（→P. 320）

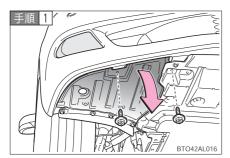
手順 2

カバーを取りはずす

手順 3 コネクターを取りはずす

▶ PCS カメラセンサー非装着車

▶ PCS カメラセンサー装着車

電球を取りはずす

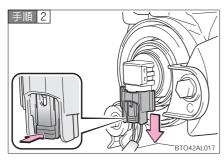
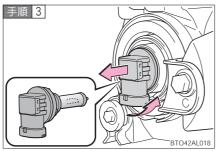
手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグライト

手順 1

ボルトを取りはずし、フェンダーライナーをめくる

手順 2

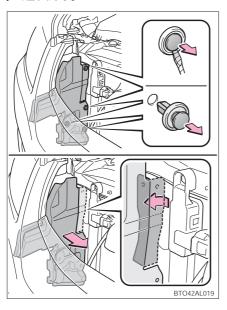
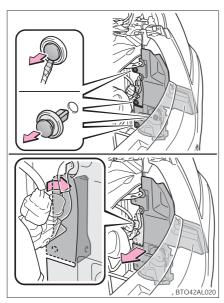
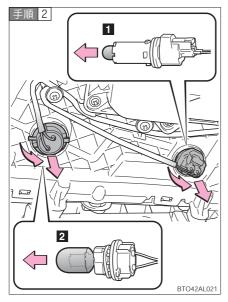
コネクターを取りはずす

手順 3

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 車幅灯／フロント方向指示兼非常点滅灯

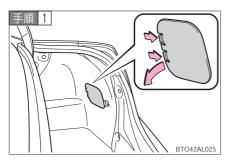
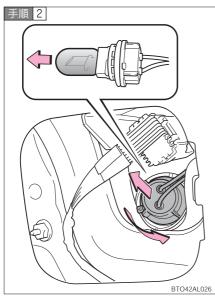
手順 1 クリップを取りはずし、カバーを取りはずす

▶ 運転席側

▶ 助手席側

手順 2 ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

1 車幅灯

2 フロント方向指示兼非常点滅灯

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯

トランクを開け、カバーを取りはずす

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

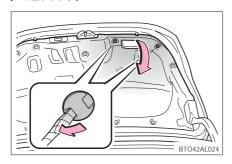
■ 後退灯／リヤフォグライト（リヤフォグライト装着車）

手順 1 トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーをめくる

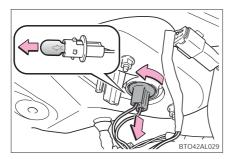
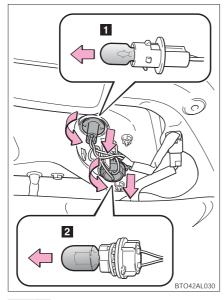
▶ 運転席側

BTO42AL024

▶ 助手席側

BTO42AL028

パワートランクリッド装着車は、助手席側の電球を交換する場合、パワートランクリッドスイッチのスイッチカバーも取りはずします。

手順 2 ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

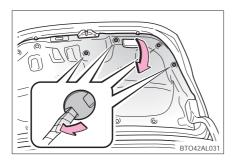
▶ リヤフォグライト非装着車

▶ リヤフォグライト装着車

1 後退灯

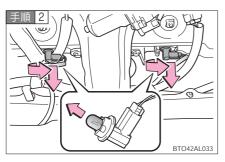
2 リヤフォグライト

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

手順 1 トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーをめくる

▶ 運転席側

▶ 助手席側

パワートランクリッド装着車は、助手席側の電球を交換する場合、パワートランクリッドスイッチのスイッチカバーも取りはずします。

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ● ヘッドライト（ロービーム）
- ● 方向指示灯兼非常点滅灯（ドアミラー部）
- ● 制動灯
- ● 尾灯
- ● ハイマウントストップライト

知識

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- ●レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ●ライト内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電による重大な傷害の原因になります。

■ディスチャージヘッドライトについて

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電による重傷の原因になることがあります。

注意

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

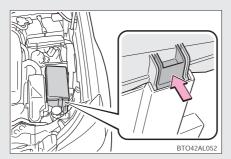
ヒューズの点検、交換

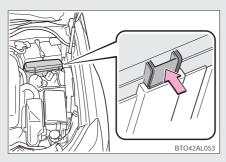
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

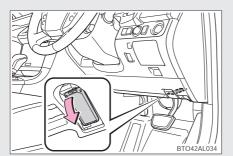
手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする

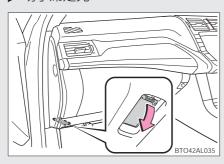
手順 2 エンジンルーム A のヒューズボックスを開けるときは、エンジンルームカバーの助手席側をはずす（→P. 320）

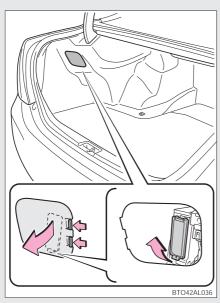
手順 3 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム A

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

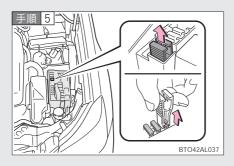
▶ エンジンルーム B

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

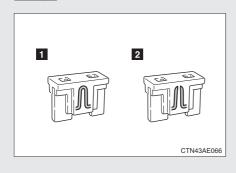
▶ 運転席足元

ヒューズボックスカバーを取りはずす

▶ 助手席足元

ヒューズボックスカバーを取りはずす

▶ トランク内

トランクを開け、カバーを取りはずし、ヒューズボックスカバーを取りはずす

手順 4 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 340)で確認する

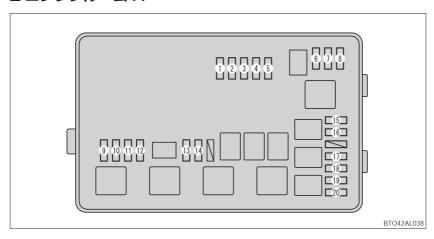
手順 5

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

手順 6 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する

1 正常

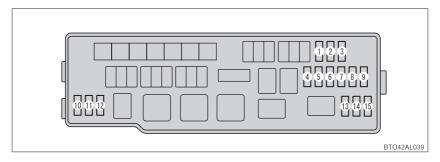
2 ヒューズ切れ

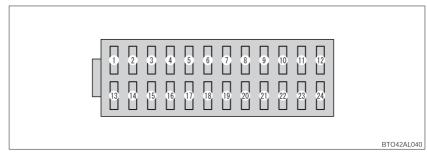
ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

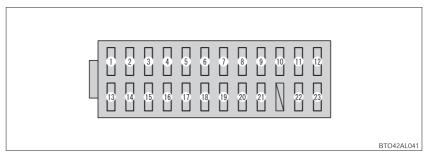
■ エンジンルーム A

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI NO.2	10 A	エンジンコントロールシステム
2	HORN	10 A	ホーン
3	A/F	15 A	排気システム
4	WASH-S	5 A	レーンキーピングアシスト
5	F/PMP	20 A	フューエルポンプ
6	SPARE	ー	スペア
7	SPARE	ー	スペア
8	SPARE	ー	スペア
9	EDU NO.1	25 A	EFI システム
10	EDU NO.2	25 A	EFI システム
11	EFI MAIN	25 A	エンジンコントロールシステム
12	ETCS	10 A	エンジンコントロールシステム
13	H-LP LH	15 A	ヘッドライト（ロービーム）左
14	H-LP RH	15 A	ヘッドライト（ロービーム）右
15	H-LP LH HI	15 A	ヘッドライト（ハイビーム）左
16	H-LP RH HI	15 A	ヘッドライト（ハイビーム）右

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	FR FOG	10 A	フロントフォグライト
18	TAIL	15 A	尾灯、車幅灯
19	P-INJ	10 A	EFI システム
20	IG2	10 A	点火系

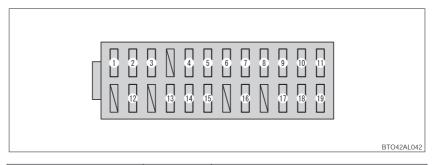
■ エンジンルーム B

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	IG2 MAIN	20 A	各 ECU 電源
2	D/C CUT	20 A	室内灯、各 ECU 電源
3	ECU-B	10 A	EPS、VGRS
4	ABS MAIN NO.1	10 A	ブレーキシステム
5	ABS MAIN NO.2	10 A	ブレーキシステム
6	ABS MAIN NO.3	10 A	ブレーキシステム
7	ABS MAIN NO.4	10 A	ブレーキシステム
8	OTTOMAN	30 A	オットマン
9	CCS RL	30 A	コンフォータブル・エアシート左
10	FR DEICER	25 A	フロントワイパーデアイサー
11	INV	20 A	アクセサリーソケット
12	CDS	10 A	コンデンサー
13	WIP-S	7.5 A	ミリ波レーダー
14	DOME	10 A	室内照明
15	MPX-B	10 A	各 ECU 電源

■ 運転席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	STOP	7.5 A	制動灯
2	TV	10 A	ナビゲーションシステム
3	PWR SEAT FR	30 A	フロントパワーシート右
4	TI & TE	20 A	マイコンプリセットステアリング
5	ACC	7.5 A	アクセサリー電源
6	PWR OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
7	WASHER	20 A	ウォッシャー
8	WIPER	30 A	ワイパー
9	AIR SUS	20 A	AVS
10	SEAT HTR FR	15 A	フロントシートヒーター右
11	RH-IG	10 A	各 ECU 電源
12	RH ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
13	DOOR FR	30 A	フロントドア右
14	DOOR RR	30 A	リヤドア右
15	AM2	7.5 A	EFI システム
16	SECURITY	7.5 A	EFI システム
17	STR LOCK(RHD)	20 A	EFI システム
18	DCM	5 A	通信モジュール
19	IGN	10 A	EFI システム
20	FUEL OPN(RHD)	10 A	フューエルオープナー
21	S/ROOF	20 A	ムーンルーフ

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
22	P/W-B(RHD)	5 A	パワーウインドウ
23	MULTIMEDIA	10 A	オーディオ、ナビゲーションシステム
24	OBD(RHD)	7.5 A	チェックコネクター

■ 助手席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P/W-B(LHD)	5 A	未使用
2	LH J/B-B	7.5 A	ボデー系システム
3	AM1	5 A	未使用
4	PWR SEAT FL	30 A	フロントパワーシート左
5	CIG	15 A	シガレットライター
6	D/L NO.1	25 A	ドアロック
7	SEAT HTR FL	15 A	フロントシートヒーター左
8	AFS	7.5 A	AFS
9	NV-IR	10 A	ナイトビュー
10	BACK UP	7.5 A	後退灯
11	LH ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
12	LH-IG	10 A	各 ECU 電源
13	DOOR RL	30 A	リヤドア左
14	DOOR FL	30 A	フロントドア左
15	D/L NO.2	25 A	ドアロック
16	RAD NO.3	15 A	オーディオ

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	HAZ	15 A	非常点滅灯
18	STR LOCK(LHD)	20 A	未使用
19	GAUGE	7.5 A	メーター
20	OBD(LHD)	7.5 A	未使用
21	PANEL	7.5 A	イルミネーション
22	A/C	7.5 A	エアコン
23	FUEL OPN(LHD)	10 A	未使用

■ トランク内

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	RR A/C	10 A	リヤエアコン
2	PWR SEAT RL	30 A	リヤパワーシート左
3	PSB	30 A	プリクラッシュセーフティシステム
4	PTL	30 A	トランククローザー
5	RR FOG	10 A	リヤフォグライト
6	SEAT HTR RR	15 A	リヤシートヒーター
7	RR ECU-IG2	10 A	各 ECU 電源
8	RR ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
9	RR SEAT	10 A	未使用
10	BACK UP	7.5 A	未使用
11	RR-IG	10 A	各 ECU 電源
12	CAPACITOR	10 A	ECB システム電源

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
13	RAD NO.1	30 A	オーディオ
14	TRK OPN	7.5 A	未使用
15	RAD NO.2	30 A	オーディオ
16	PWR SEAT RR	30 A	リヤパワーシート右
17	RR CCS	30 A	コンフォータブル・エアシート右
18	RR J/B-B	10 A	デジタルテレビ
19	QAS ECU	15 A	プリクラッシュセーフティシステム

知識

■ヒューズを交換したあと

- ●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 323)
- ●取りかえても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災が起きたり、けがをするおそれがあります。

- ●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- ●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバーなど
- リチウム電池 CR1632

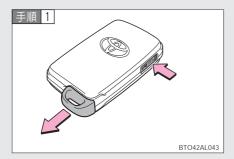
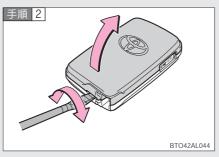
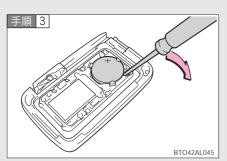
■ 電池交換のしかた

手順 1

BTO42AL043

メカニカルキーを抜く

手順 2

BTO42AL044

カバーをはずす

消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■電池が消耗していると

次のような状態が起こります。

●スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■**取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

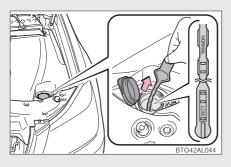
注意

■**交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

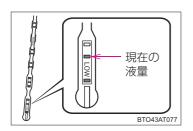
- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品にふれたり、部品を動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーにテーピングをしたり布きれをあててからはずしてください。
  カバーに傷が付くおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

BTO42AL044

液面がLOWの位置に近付いたらウォッシャー液を補給してください。

知識

■ゲージの使い方

BTO43AT077

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった(LOWの位置まで低下した)ら、ウォッシャー液を補給してください。

⚠ 警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみが付くおそれがあります。

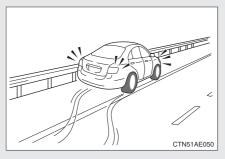
■ **ウォッシャー液のうすめ方**

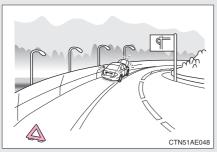
必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

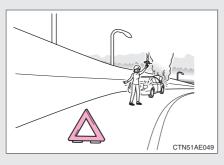
トラブルが起きたら 5

故障したときは

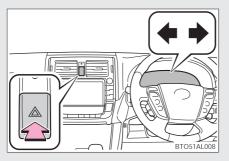
故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 353)
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています)

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 354)

非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

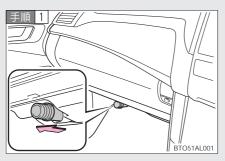
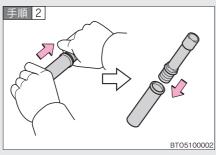
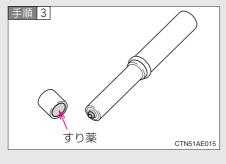
ファイングラフィックメーターの方向指示表示灯は、“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき点滅します。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタをとり、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。

警告

■**発炎筒が使用できない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

● トンネル内

● ガソリンなど可燃物の近く

■**発炎筒の取り扱いについて**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

● 発炎筒は、お子さまにさわらせない

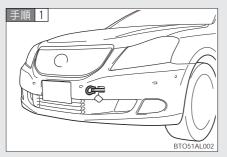
けん引について

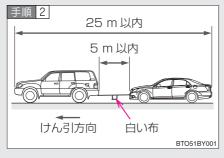
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

手順 1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 2 ロープの中央に白い布を付ける

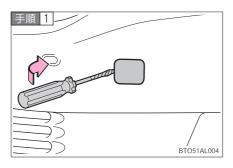
布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

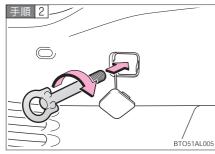
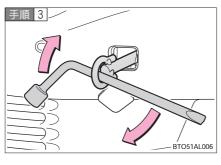
手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付け方

マイナスドライバーを使ってフタをはずす

車体への損傷を防ぐため、ドライバーにテーピングをしたり布きれをあててください。

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フック、ホイールナットレンチの収納位置

→P. 386

警告

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置に指定のけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定位置にしっかり取り付けないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

■車両を運搬するときは（4WD 車）

必ず 4 輪接地または 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

■けん引中の運転について

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
  けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や間違った車両操作は避けてください。
  けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- " エンジン スタート ストップ " スイッチを OFF にしないでください。
  ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
  エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

警告

■レッカー車などで車両を持ち上げてけん引するとき

- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、必ずエンジンを停止してください。

注意

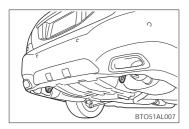
■車両の損傷を防ぐために

けん引されるときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■固縛用フックについて

固縛用フックは、船舶固縛で車両を輸送するときに使用するためのものです。けん引には絶対に使用しないでください。
(寒冷地仕様車以外の固縛用フックは 1 個になります)

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジン回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転席および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。
（車種によっては記録される項目が異なります）

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!) （赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ **パーキングブレーキ未解除警告ブザー：**
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。（→P. 373）

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常
（赤色）	**水温警告灯（ファイングラフィックメーター）** エンジン冷却水温の異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
(黄色)	**電子制御ブレーキ警告灯（FR 車）** 電子制御ブレーキシステムの異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS の異常
PCS (点滅)	**PCS 警告灯** ・PCS の異常 ・前側方 PCS *の異常 ・後方 PCS の*異常

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■パワーステアリング警告灯について

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。ハンドルを操作して通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯※1 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	開いているドア、トランクを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量 （約 11 L）	燃料を補給
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）**※2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 367

※1 **半ドア走行時警告ブザー：**
いずれかのドア、トランクまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえたときにブザーが鳴ります。

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

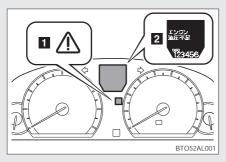
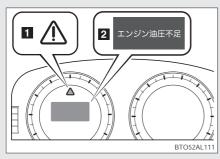
警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。

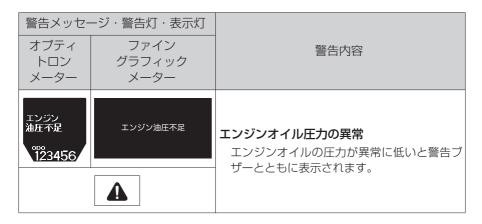
1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

▶ オプティトロンメーター

▶ ファイングラフィックメーター

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ・警告灯・表示灯		警告内容
オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター	
エンジン油圧不足 ODO 123456	エンジン油圧不足	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと警告ブザーとともに表示されます。

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ・警告灯・表示灯		警告内容
オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター	
4WD システムチェック ODO 123456	4WDシステムチェック	**4WD システム * の異常** 警告ブザーが鳴ります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

<table>
<tr><th colspan="2">警告メッセージ・警告灯・表示灯</th><th rowspan="2">警告内容</th></tr>
<tr><th>オプティトロンメーター</th><th>ファイングラフィックメーター</th></tr>
<tr><td>ステアリングロックシステムチェック
ODO 123456</td><td>ステアリングロックシステムチェック</td><td rowspan="2">ステアリングロックシステムの異常
警告ブザーが鳴ります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">(警告灯)</td></tr>
<tr><td>VSCシステムチェック
ODO 123456</td><td>VSCシステムチェック</td><td rowspan="2">TRC、VSC の異常
警告ブザーが鳴ります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">(警告灯)</td></tr>
<tr><td>PCSシステムチェック
ODO 123456</td><td>PCSシステムチェック</td><td rowspan="3">PCS、前側方 PCS *、後方 PCS *の異常
警告ブザーが鳴ります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">PCS
（点滅）</td></tr>
<tr><td colspan="2">(警告灯)</td></tr>
</table>

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

<table>
<tr><th colspan="2">警告メッセージ・警告灯・表示灯</th><th rowspan="2">警告内容</th></tr>
<tr><th>オプティトロンメーター</th><th>ファイングラフィックメーター</th></tr>
<tr><td>クルーズ
システムチェック
ODO
123456</td><td>クルーズシステムチェック</td><td rowspan="4">クルーズコントロールシステム＊、レーダークルーズコントロールシステム＊の異常
警告ブザーが鳴ります。
ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">クルーズコントロール表示灯
（点滅）</td></tr>
<tr><td colspan="2">レーダークルーズコントロール表示灯
（点滅）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>パワー
ステアリング
システムチェック
ODO
123456</td><td>パワーステアリング
システムチェック</td><td rowspan="3">EPS の異常
警告ブザーが鳴ります。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ・警告灯・表示灯		警告内容
オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター	
VGRS システムチェック ODO 123456		**VGRS *の異常** 警告ブザーが鳴ります。
⚠		
ナビ・ブレーキアシスト システムチェック ODO 123456	ナビ・ブレーキアシスト システムチェック	**ナビ・ブレーキアシストの異常** 警告ブザーが鳴ります。 ナビ・ブレーキアシストについては別冊「ナビゲーションシステム取扱書／GPSボイスナビゲーション／地図の操作」を参照してください。
⚠		
ブレーキランプ システムチェック ODO 123456	ブレーキランプシステム チェック	**ブレーキランプ制御システムの異常** 警告ブザーが鳴ります。
⚠		
ソナー チェック ODO 123456	ソナー チェック	**クリアランスソナー*の異常** 異常のあるソナーの位置が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 クリアランスソナーについては別冊「ナビゲーションシステム取扱書／クリアランスソナー／異常時の表示」を参照してください。
⚠		

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ・警告灯・表示灯		警告内容
オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター	
ナイトビューシステム チェック		**ナイトビュー*の異常** 警告ブザーが鳴ります。
⚠		
エア サスペンション システムチェック ODO 123456	エアサスペンション システムチェック	**電子制御エアサスペンションの異常** 警告ブザーが鳴ります。
⚠		

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ・警告灯・表示灯		警告内容	対処方法
オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
運転席ドアオープン ODO 123456	運転席ドア開	**いずれかのドア、トランク、ボンネットが確実に閉まっていない** 開いているドア、トランク、ボンネットが表示されます。 確実に閉まっていない状態のまま、車速が約5km/hをこえたときには が点滅し、警告ブザーが鳴ります。	開いているドア、トランク、ボンネットを閉める
（ボンネットを除く）			
パーキングブレーキを解除して下さい ODO 123456	パーキングブレーキを解除して下さい	**パーキングブレーキをかけたまま、車速が約5 km/h以上になった** 警告ブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
（点滅）			

警告メッセージ・警告灯・表示灯		警告内容	対処方法
オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
ムーンルーフが開いています ODO 123456	ムーンルーフが開いています	**ムーンルーフ＊が確実に閉まっていない状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにして運転席ドアを開けた**	ムーンルーフを閉める
！（点滅）			
エンジンオイル不足 ODO 123456	エンジンオイル不足	**エンジンオイルの不足＊** 警告ブザーが鳴ります。	エンジンオイル量を点検し、エンジンオイルを補給する
！			
PCS現在使用できません ODO 123456	PCS現在使用できません	**PCS、前側方PCS＊、後方PCS＊が現在機能していない**	グリル、センサーまたはカバーの汚れおよび氷などを取り除く プリクラッシュセーフティシステムが熱くなると点灯します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。
PCS（点灯）			

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ・警告灯・表示灯		警告内容	対処方法
オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
レーダー汚れ 清掃必要 ODO 123456	レーダー汚れ 清掃必要	**レーダークルーズコントロール*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
（点滅）			
悪天候 クルーズ できません ODO 123456	悪天候 クルーズできません	**レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可** 警告ブザーが鳴ります。	・ワイパーを止めるか低速作動にかえる ・スノーモードを解除する
（点滅）			
50 km/h ODO 123456 （点滅）	（点滅）	**（レーダークルーズコントロール*の車間制御中）衝突の可能性がある** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキを踏む

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ・警告灯・表示灯		警告内容	対処方法
オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
ブレーキ！ ODO 123456	ブレーキ!	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動していることを示す（ブレーキ連動方式PCS装着車を除く）**	ブレーキで減速する
ソナー汚れ ODO 123456	ソナー汚れ	**クリアランスソナー＊のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。 クリアランスソナーについては別冊「ナビゲーションシステム取扱書／クリアランスソナー／異常時の表示」を参照してください。	汚れおよび氷などを取り除く
LKA システムチェック ODO 123456	LKAシステムチェック	**LKA＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。	エンジン再始動後、LKAを再起動する
LKA（点滅）			

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ・警告灯・表示灯		警告内容	対処方法
オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
LKA 現在使用できません ODO 123456	LKA現在使用できません	・**白線認識カメラ＊が作動範囲外の高温状態** ・**EPS の作動制限中＊** 警告ブザーが鳴ります。	LKA を再起動する

知識

■レーダークルーズコントロールの車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、次のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- ●先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき
- ●先行車が非常にゆっくりした車のとき
- ●速度を設定した直後
- ●アクセルが踏まれたとき

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告ブザー		警告メッセージ・警告灯		警告内容	対処方法
車内	車外	オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
1回	なし	キーが 見つかりません ODO 123456	キーが見つかりません	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
		（点滅）			
1回	3回	キーが 見つかりません ODO 123456	キーが見つかりません	“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
		（点滅）			
		キーが 見つかりません ODO 123456	キーが見つかりません	シフトレバーがPの状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにするまたは電子キーを車内にもどす
		（点滅）			

警告ブザー		警告メッセージ・警告灯		警告内容	対処方法
車内	車外	オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
1回	1回	キーが見つかりません ODO 123456 電源をOFFして下さい ODO 123456 （交互に表示）	キーが見つかりません 電源をOFFして下さい （交互に表示）	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに、電子キーを持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあと、施錠する
		（点滅）			
1回	なし	キーが見つかりません ODO 123456	キーが見つかりません	電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
		（点滅）			
連続音	なし	Pレンジに入れて下さい ODO 123456	Pレンジに入れて下さい	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーを P にする
		（点滅）			

5

トラブルが起きたら

<table>
<tr><th colspan="2">警告ブザー</th><th colspan="2">警告メッセージ・警告灯</th><th rowspan="2">警告内容</th><th rowspan="2">対処方法</th></tr>
<tr><th>車内</th><th>車外</th><th>オプティトロンメーター</th><th>ファイングラフィックメーター</th></tr>
<tr><td rowspan="2">連続音</td><td rowspan="2">連続音</td><td>Pレンジに入れて下さい
ODO 123456
キーが見つかりません
ODO 123456
（交互に表示）</td><td>Pレンジに入れて下さい
キーが見つかりません
（交互に表示）</td><td rowspan="2">シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタートストップ” スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された</td><td rowspan="2">・シフトレバーをPにする
・電子キーを車内に入れる</td></tr>
<tr><td colspan="2">（点滅）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">警告ブザー</th><th colspan="2">警告メッセージ・警告灯</th><th rowspan="2">警告内容</th><th rowspan="2">対処方法</th></tr>
<tr><th>車内</th><th>車外</th><th>オプティトロンメーター</th><th>ファイングラフィックメーター</th></tr>
<tr><td rowspan="4">1 回</td><td rowspan="4">連続音</td><td>車室内に
キーがあります
ODO
123456</td><td>車室内にキーがあります</td><td rowspan="2">車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした</td><td rowspan="4">車内から電子キーを取り出したあと、施錠する</td></tr>
<tr><td colspan="2">（点滅）</td></tr>
<tr><td>車室内に
キーがあります
ODO
123456</td><td>車室内にキーがあります</td><td rowspan="2">車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開きロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした</td></tr>
<tr><td colspan="2">（点滅）</td></tr>
</table>

警告ブザー		警告メッセージ・警告灯		警告内容	対処方法
車内	車外	オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
1 回	なし	ブレーキを踏みながらキーでエンジンスイッチに触れて下さい ODO 123456	ブレーキを踏みながらキーでエンジンスイッチに触れて下さい	・メカニカルキーで解錠して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したした際、車室内でキーを検出できなかった ・“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したときに車室内でキーを検出できないことが 2 回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーで“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる
		（点滅）			
1 回	なし	始動時はPレンジに入れて下さい ODO 123456	始動時はPレンジに入れて下さい	エンジン始動不可能なシフトレバー位置でエンジン始動しようとしている 警告ブザーが鳴ります。	シフトレバーを P に入れてからエンジンを始動する
		（点滅）			

警告ブザー		警告メッセージ・警告灯		警告内容	対処方法
車内	車外	オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
1 回	なし	電源OFF時はPレンジに入れてエンジンスイッチを押して下さい ODO 123456	電源OFF時はPレンジに入れてエンジンスイッチを押して下さい	シフトレバーが P もしくは N 以外で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしようとした 警告ブザーが鳴ります。	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたい場合は、シフトレバーを P にし“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
		！（点滅）			
なし	なし	バッテリー保護の為自動電源OFFしました ODO 123456	バッテリー保護の為自動電源OFFしました	自動電源 OFF 機能が作動した	次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電する
1 回	なし	キーバッテリー残りわずか ODO 123456	キーバッテリー残りわずか	電子キーの電池残量が少ない 警告ブザーが鳴ります。	新しい電池と交換する (→P. 346)
		！			

警告ブザー		警告メッセージ・警告灯		警告内容	対処方法
車内	車外	オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
1回	なし	始動時はブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押して下さい ODO 123456	始動時はブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押して下さい	“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFの状態で運転席のドアを開閉してからエンジンをかけずに“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードに2回以上した 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキを踏んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
		（点滅）			
		始動時はブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押して下さい ODO 123456	始動時はブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押して下さい	電子キーが正常に働かないときのエンジン始動の方法で（→P.401）“エンジン スタート ストップ”スイッチに電子キーでふれた	ブザーが鳴ってから10秒以内に“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
		（点滅）			

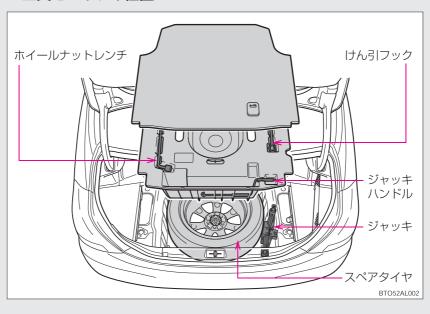
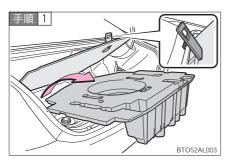
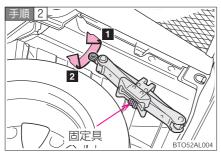
警告ブザー		警告メッセージ・警告灯		警告内容	対処方法
車内	車外	オプティトロンメーター	ファイングラフィックメーター		
1 回	なし	ステアリングロック未解除 ODO 123456	ステアリングロック未解除	“エンジン スタート ストップ”スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながら“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
		(点滅)			

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は、P. 308 をご覧ください）

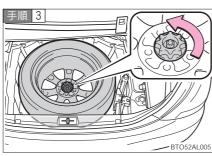
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

ジャッキとスペアタイヤの取り出し方

ラゲージマットを持ち上げ、レバーをトランクの縁にかけておき、ラゲージアンダートレイを取りはずす

ジャッキを取り出す

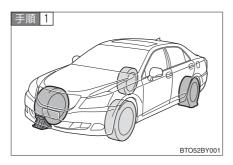
1 締める

2 ゆるめる

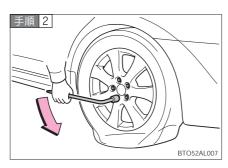
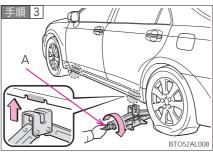
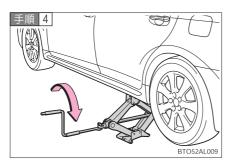
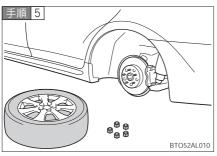
格納するときはジャッキと固定具がかみ合うよう確実に固定してください。

スペアタイヤを取りはずす

止め具を取りはずし、タイヤを取り出します。

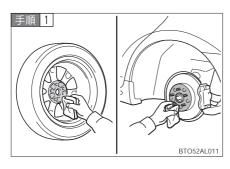
スペアタイヤを出し入れするときは、タイヤの両端をしっかりと持って出し入れしてください。
（スペアタイヤ単体重量：約 20kg）

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

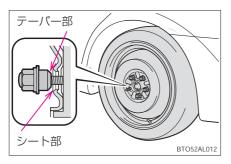
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

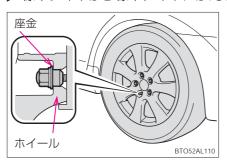
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にする。

タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る

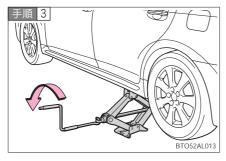
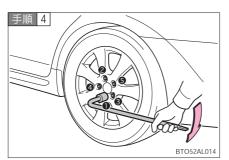
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

▶ 標準タイヤから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ 標準タイヤから標準タイヤにかえるとき

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

車体を下げる

手順 4

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 標準タイヤ装着車では、はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付ける

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤ＊について

●タイヤの側面にTEMPORARY USE ONLYと書かれています。応急用にのみお使いください。

●空気圧を必ず点検してください。(→P. 417)

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものをのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、ジャッキアップ時は必ずエンジンを停止する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■タイヤ交換について

ケガを負う危険を減らすため、次のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●ホイールの交換後はすぐに 103 N・m(1050 kgf・cm)の力でナットを締める

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

●ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。(→P. 311)
上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

■スペアタイヤを収納するときは

ボデーとスペアタイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

■応急用タイヤ＊を使用するときは

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

＊:車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■応急用タイヤ*使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■応急用タイヤ*装着中は

●正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・AFS
・レーダクルーズコントロール*
・電子制御エアサスペンション
・VSC
・EPS
・VDIM
・前側方 PCS *
・ナイトビュー*
・NAVI・AI-SHIFT
・サイドモニター*
・クルーズコントロール*
・LKA *
・ABS &ブレーキアシスト
・TRC
・VGRS *
・PCS
・後方 PCS *
・GPS ボイスナビゲーション
・バックガイドモニター*
・クリアランスソナー*
・インテリジェントパーキングアシスト*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

●4WD システム*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ*装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時にくらべ車高が低くなっています。
段差を乗りこえるときはご注意ください。

■応急用タイヤ*使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪として使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 147）に従っても、またステアリングロックを解除（→P. 149）してもエンジンがかからないときは、次のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 147）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 99）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 403）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 403）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時エンジン始動

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 シフトレバーを P に入れる

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒以上 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押し続ける

上記の手順に従いエンジンが始動できても、システムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

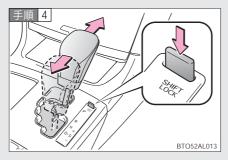
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。

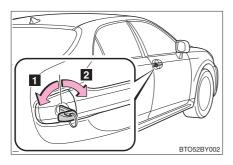
キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。（→P. 26）

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 42）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動することができます。

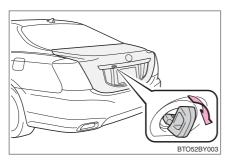
ドアの解錠・施錠、トランクの解錠

▶ ドア

メカニカルキー（→P. 27）を使って操作する

1 全ドア解錠

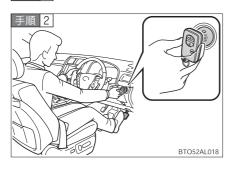
2 全ドア施錠

メカニカルキーでドアガラス・ムーンルーフ*の開閉を行うことができます。詳しくは販売店にご相談ください。

▶ トランク

メカニカルキー（→P. 27）を時計まわりにまわして開ける

モードの切りかえ、エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む

手順 2

電子キー（カードキーを含む）のトヨタエンブレム面で“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー＆スタートシステムが“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

手順 3 次の操作を行う

モードの切りかえ：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 147）

エンジン始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

■電池交換について

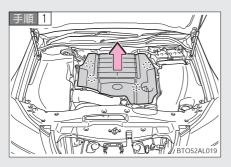
前ページのエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 346)

■販売店またはナビゲーションシステムの画面で設定可能な機能

ナビゲーションシステムの画面上でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルすることができます。
スマートエントリー&スタートシステムがキャンセルされていないことも確認してください。(車両カスタマイズ機能一覧 →P. 420)

バッテリーがあがったときは

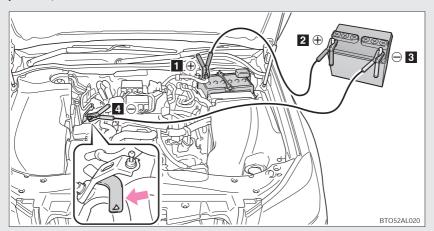
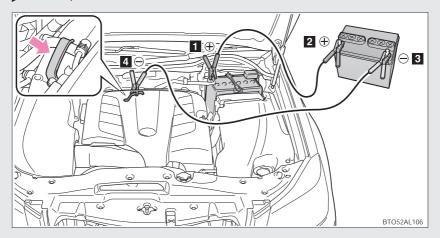
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

FR 車は、エンジンルーム中央のカバーをはずす

カバー各部を上に引き、固定ピンからはずします。

手順 2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1. 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
2. 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3. 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4. 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（次ページの図に示すような固定された部分）につなぐ

▶ FR 車

▶ 4WD 車

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“ エンジン スタートストップ ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーがあがったときの留意事項

- ●バッテリーがあがった直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、または メカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- ●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、異常ではありません。
- ●車両は常に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてから行ってください。
  バッテリーあがり前の “ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、次のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚・衣服・車体に付かないようにする
- バッテリーに寄りかかったりしない
- 誤ってバッテリー液が体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
  また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

▶ オプティトロンメーター装着車

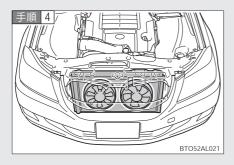
水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する

▶ ファイングラフィックメーター装着車

水温警告灯が白色になってからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する

手順 4

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

エンジンルームカバーを取りはずすには（→P. 320）

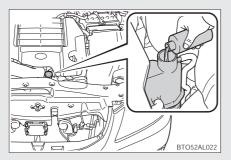
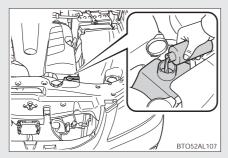
手順 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給する

▶ FR 車

BTO52AL022

▶ 4WD 車

BTO52AL107

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

●エンジンルームから蒸気が出る

▶ オプティトロンメーター装着車

●水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する

▶ ファイングラフィックメーター装着車

●水温警告灯が赤く点滅・点灯したり、エンジン出力が低下する

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。

●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを停止する

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

TRC、VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。(→P. 210)

警告

■**脱出するときの警告**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

● タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。

● この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

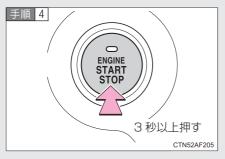
手順 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4 "エンジン スタート ストップ" スイッチを 3 秒以上押し続けてエンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両の仕様 6

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	71

エンジンオイル

<table>
<tr><th rowspan="2">銘柄</th><th rowspan="2">エンジン</th><th colspan="2">容量 [L]（参考値）</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td rowspan="2">トヨタ純正モーターオイル　SM 0W-20※
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 0W-20

トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 5W-30

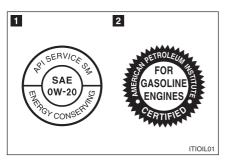
トヨタ純正モーターオイル　SM 10W-30
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 10W-30

トヨタ純正モーターオイル　SL 5W-20
—API SL, EC SAE 5W-20

トヨタ純正モーターオイル　SL 10W-30
—API SL, EC SAE 10W-30</td><td>1UR-FSE</td><td>8.4</td><td>8.6</td></tr>
<tr><td>3UZ-FE</td><td>4.5</td><td>5.1</td></tr>
</table>

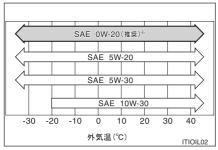
※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。
粘度の高いオイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	1UR-FSE	10.2
	3UZ-FE	10.7

オートマチックトランスミッション

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正オートフルード　WS	1UR-FSE	10.8
	3UZ-FE	10.7

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

フロントディファレンシャル（4WD 車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX （API GL-5, SAE 85W-90）	0.7

リヤディファレンシャル

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	駆動方式	基準値 [mm]
遊び	FR	1 ～ 3
	4WD	1 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	FR	67 以上
	4WD	64 以上

※ エンジン回転時に 490N (50kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
4.7

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
標準タイヤ	235/50R17 96V	230 (2.3)
応急用タイヤ*	T155/70D17 110M	420 (4.2)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ
標準タイヤ	235/50R17 96V	17 × 7 1/2J
応急用タイヤ*	T155/70D17 110M	17 × 4T

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト 　ハイビーム（バルブタイプ：HB3） 　　＜ PCS カメラセンサー非装着車＞ 　ハイビーム（バルブタイプ：H11） 　　＜ PCS カメラセンサー装着車＞ ロービーム（ディスチャージヘッドライト）	 60 55 35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H8）	35
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯＆尾灯	LED ※
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
	リヤフォグライト*	21
	ドアミラー照明	5

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球		W（ワット）数
車内	フロントパーソナルライト	8
	ルームライト	8
	読書灯	8
	天井サイドイルミネーション*	LED ※
	トランクライト	3.8
	シフト照明	LED ※
	フロント足元照明	LED ※
	リヤ足元照明	LED ※
	ドアカーテシ照明	5
	グローブボックスライト	LED ※
	バニティライト	8

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

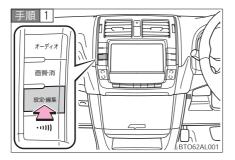
型式	エンジン	駆動方式
URS206	1UR-FSE（4.6L ガソリン）	FR（後輪駆動）
UZS207	3UZ-FE（4.3L ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

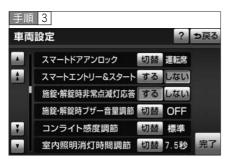
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両カスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。
また、ナビゲーションシステムの画面操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

ナビゲーションシステムの画面で車両カスタマイズ設定をする

「設定・編集」スイッチを押す

「車両」にタッチし設定したい項目にタッチ

各項目を設定し「完了」にタッチ

「する」、「しない」、または「切替」にタッチします。

「切替」にタッチしたときは次に表示された画面で設定値を選択します。

「完了」にタッチすると設定変更中画面が表示されます。

設定変更中は他の操作を行わないでください。

「完了」にタッチせずに、他の画面に切りかえると設定は変更されません。

車両カスタマイズ設定一覧

車両カスタマイズ設定はトヨタ販売店で変更することができます。ナビゲーションシステムの画面操作により設定を変更できる機能もあります。
また、車両側のスイッチ操作のみで設定できる機能もあります。

1 ナビゲーションシステムの画面操作で設定可
2 車両側のスイッチ操作などで設定可
3 トヨタ販売店で設定可

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th></tr>
<tr><td rowspan="3">スマートエントリー＆スタートシステム
(→P. 31)</td><td>スマートエントリー＆スタートシステム</td><td>する</td><td>しない</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr>
<tr><td>解錠ドアの選択</td><td>全席</td><td>運転席</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>連続してできる施錠操作の回数</td><td>２回</td><td>無制限</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ワイヤレスドアロック
(→P. 43)</td><td>ワイヤレス機能</td><td>する</td><td>しない</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr>
<tr><td>ワイヤレスリモコンの２回操作の解錠</td><td>１回で全ドア解錠</td><td>１回で運転席ドア解錠、連続２回で全ドア解錠</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ワイヤレスリモコンのトランクスイッチを押しての解錠操作</td><td rowspan="4">１回長押し</td><td>１回短押し</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="4">○</td></tr>
<tr><td>２回押し</td></tr>
<tr><td>１回長押し（初期設定時よりもさらに長押し）</td></tr>
<tr><td>なし</td></tr>
</table>

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
スマートエントリー＆スタートシステム（→P. 31）とワイヤレスドアロック（→P. 43）共通	作動の合図（ブザー音量調整）	7	6～1	○	ー	○
			OFF			
	作動の合図（非常点滅灯）	する	しない	○	ー	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	ー	ー	○
			120 秒			
	半ドア警告ブザー	する	しない	ー	ー	○
ドアロック（→P. 45）	車速感応式ドアロック	あり	なし	○	ー	○
	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり	○	ー	○
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし	○	ー	○
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり	○	ー	○
	メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	○	ー	○
パワーウインドウ（→P. 87）	ドアキー連動開閉機能	なし	あり	ー	ー	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	ー	ー	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
ムーンルーフ(→P. 90)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし	—	—	○
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ	—	—	○
	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	あり	なし	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
オートアラーム(→P. 100)	メカニカルキーを使って解錠したときの作動	なし	あり	—	—	○
ライト自動点灯・消灯システム(→P. 177)	ライトセンサーの感度調整	0	－2～+2※	○	—	○
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○

※ －側：点灯が遅くなる

＋側：点灯が早くなる

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
イルミネーション(→P. 260)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	○	ー	○
			30 秒			
			OFF			
	“エンジン スタートストップ”スイッチOFF 後の作動	あり	なし	ー	ー	○
	ドアミラー照明の点灯時間	15 秒	7.5 秒	○	ー	○
			30 秒			
			OFF			
	足元照明の点灯	あり	なし	ー	ー	○
	シフト照明の点灯	あり	なし	ー	ー	○
	天井間接照明の減光制御	あり	なし	ー	ー	○
	接近時のルームライトの点灯	あり	なし	ー	ー	○
エアコン(別冊「ナビゲーションシステム取扱書／エアコン／フロントオートエアコン」参照)	外気導入と内気循環の切りかえが AUTO モード時の排ガスセンサーの感度の調節	0	ー3～+3※	○	ー	○
	AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	ー	○
	AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	ー	○

※ ー側：内気への切りかえが遅くなる

＋側：内気への切りかえが早くなる

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
その他	周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	−2～+2※1	○	−	○
	周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	−2～+2※2	○	−	○
	電動リヤサンシェードリバース連動機能	あり	なし	−	−	○
	降車時運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	−	○
			少なめ			
	オート電動格納ミラーの作動	ドアの解錠・施錠	なし	−	−	○
			“エンジンスタートストップ”スイッチの操作			

※1 −側：減光が遅くなる
＋側：減光が早くなる
※2 −側：もどりが遅くなる
＋側：もどりが早くなる

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応式ドアロック」と「シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。

・シフトレバーを P 以外にすると全ドア施錠されます。
・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。

●スマートエントリー&スタートシステムが「しない」の場合、解錠ドアの選択はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図（ブザー）」の設定に依存します。

●ムーンルーフの「ドアキー連動開閉機能」・「ワイヤレスリモコン連動開閉機能」は、それぞれ、パワーウインドウの「ドアキー連動開閉機能」・「ワイヤレスリモコン連動開閉機能」と併せて「あり」に設定しないと作動しません。ムーンルーフの連動開閉機能は、ムーンルーフのみ作動させない場合に設定を変更してください。

■車両側のスイッチで設定を行った場合

ナビゲーションシステムの画面で設定できる項目を、車両側のスイッチで設定した場合、ナビゲーションシステムの画面の項目表示は、すぐに切りかわりません。
いったん“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてから、再度“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると画面表示が切りかわります。

■ナビゲーションシステムの画面でカスタマイズを行うときは

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告

■**ナビゲーションシステムの画面でカスタマイズを行うときは**

エンジンをかけた状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

さくいん

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 後席 9 型ワイドディスプレイ
- エアコン
- バックガイドモニター
- インテリジェントパーキングアシスト
- サイドモニター
- クリアランスソナー
- ETC システム
- ITS スポットサービス（DSRC）

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
AI	アーティフィシャル・インテリジェンス
AVS	アダプティブバリアブルサスペンションシステム
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
LED	ライトエミッティングダイオード
LKA	レーンキーピングアシスト
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ビークルダイナミクスインテグレーテッドマネージメント
VGRS	バリアブルギヤレシオステアリング
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

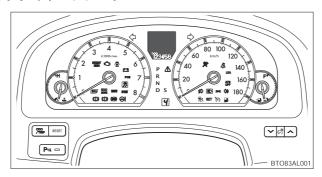
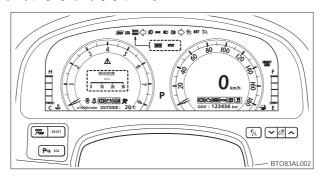
※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

症状別さくいん

警告灯が点灯、点滅した P. 362 警告灯がついたときは

▶ オプティトロンメーター

BTO83AL001

▶ ファイングラフィックメーター

BTO83AL002

■警告灯一覧

警告メッセージが表示された

P. 367 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

■警告灯の点灯・点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージをご確認ください。

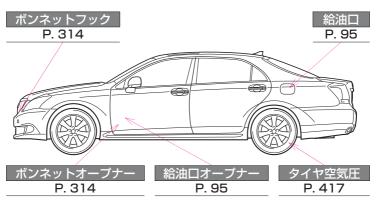
● 警告灯が点灯・点滅している（→P. 362）

● 警告メッセージが表示されている（→P. 367）

■警告灯が点灯・点滅していないとき、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことをご確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 39
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックセンサー部にふれたとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 157
	シフトレンジダウンしたとき	P. 156
	ブレーキを踏んだとき	P. 145

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量 （参考値）	71L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） P. 96, 414
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ　：230 (2.3) kPa (kg/cm^2) 応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm^2)
エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時 1UR-FSE エンジン車：8.4L 3UZ-FE エンジン車：4.5 L オイルとフィルター交換時 1UR-FSE エンジン車：8.6L 3UZ-FE エンジン車：5.1 L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・ SM 0W-20 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) ・ SM 10W-30(API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30) ・ SL 5W-20 (API SL, EC SAE 5W-20) ・ SL 10W-30(API SL, EC SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ク-15

M 30C83
01999ー30C83
IB-2010年12月13日
2010年12月20日 初版
クラウンマジェスタ